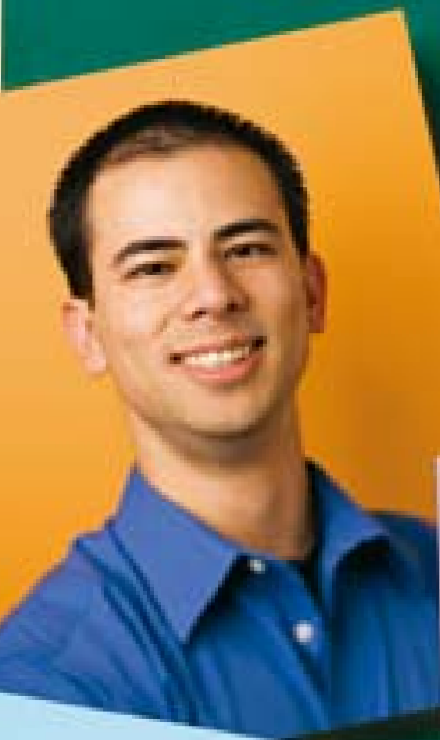


# リアホナ

一人残らず  
歓迎しましょう  
2ページ

携帯電話のメールに振り回されないために  
18ページ

日記の世界にとびこもう  
「フレンド」14ページ



末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)  
**大管長:**ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、  
 ジェームズ・E・ファウスト  
**十二使徒定員会:**ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング、ティーター・F・ウークトドリス、デビッド・A・ベドナー  
**編集長:**ジェイ・E・ジェンセン  
**顧問:**ゲアリー・J・コールマン、菊地良彦、ジェラルド・N・ランド、W・ダグラス・シャムウェー  
**実務運営ディレクター:**デビッド・L・フリッシュニクト  
**編集ディレクター:**ピクター・D・ケーブ  
**主任編集者:**ラリー・ヒラー  
**グラフィックスディレクター:**アラン・R・ロイボーク  
**編集主幹:**R・バル・ジョンソン  
**編集主幹補佐:**ジェニファー・L・グリーンウッド  
**副編集長:**ライアン・カー、アダム・C・オルソン  
**編集補佐:**スーザン・パレット  
**編集スタッフ:**クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーバー、デビッド・A・エドワーズ、ラリーン・ポーター・ガーント、キャリー・カステン、メリッサ・メルル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデカーク、ジュディス・M・パーラー、ビビアン・ポールセン、リチャード・M・ロムニー、ジェニファー・ローズ、ドン・L・サル、ジャネット・トーマス、ポール・バンテンバーグ、ジュリー・ワーデル、キンバリー・ウェッブ  
**主任秘書:**モニカ・L・ディッキンソン  
**マーケティング部長:**ラリー・ヒラー  
**実務運営アートディレクター:**M・M・カワサキ  
**アートディレクター:**スコット・バン・カンペン  
**制作主幹:**ジェン・アン・ビーターズ  
**デザイン・制作スタッフ:**カリ・R・アロン、コレット・ネベカー・オース、ブリタニー・ジョーンズ・ピーム、ハワード・G・ブラウン、ジュリー・パーデッド、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリステンセン、キャスリーン・ハワード、エリック・P・ジョンソン、デニス・カービー、ランドール・J・ピクストン  
**印刷ディレクター:**クレーク・K・セジウィック  
**配送ディレクター:**ランディー・J・ベンソン  
**日本語版翻訳課長:**ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小若5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会  
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30  
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)  
半年予約 1,200円(送料共)  
普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。  
Room 2420, 50 East North Temple Street,  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メール: liahona@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、以下の言語で出版されています。  
 アイスランド語、アヒメ語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウクライナ語、ウルドゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジア語、ギリシャ語、キリバス語、クロアチア語、サモア語、シンハラ語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、タミル語、中国語、チェコ語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ブルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒズラマ語、ヒンディー語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マラヤラム語、マダガスカル語、モンゴル語、トピア語、リトアニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)  
 ©2007 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本  
 「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。  
 「リアホナ」は、教会のホームページ [www.lds.org](http://www.lds.org) (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は言語名をクリックしてください。

**For Readers in the United States and Canada:**  
 August 2007 no. 8 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150, USA. Subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$12.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)  
 POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

### 一般

- 2 大管長メッセージ——一人残らず歓迎しましょう  
大管長第二顧問 ジェームズ・E・ファウスト管長
- 7 始まりは1枚のパンフレットから ドン・L・サール
- 12 基督教の教義の根幹 トーマス・B・グリフィス
- 25 家庭訪問メッセージ——  
神殿での礼拝に備え、参加することによって、  
神の御手に使われる者となる
- 26 人生の波を乗り越えて対等なパートナーになる  
七十人 ブルース・C・ヘーフェン長老、  
マリー・K・ヘーフェン
- 38 会員伝道を成功させるには R・バル・ジョンソン
- 44 末日聖徒の声  
どのような犠牲にも勝る神殿結婚  
ジョバニー・メディナ  
最後のチャンス ルイス・メラ  
祈りが生んだ一致 ダニエル・オープンショー
- 48 読者からの便り



12 基督教の教義の根幹



7 始まりは1枚のパンフレットから

### 表紙

写真/マシュー・ライアー、写真はイメージです

### 「フレンド」表紙

絵/ジム・マドセン

## 家庭の夕べのためのアイデア

以下のアイデアは、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることができま

### 「基督教の教義の根幹」12ページ——植物を見せるか、その絵を描きます。もし根がなかったら、植物は成長できずに死んでしまうと話してください。この植物の根のように自分たちの証を養うにはどうすればよいでしょうか。記事にある提案を読み、生活に取り入れる方法を話し合います。次の家庭の夕べで、それらの提案をどれほど実践できているかを確認してください。



### 「携帯電話のメールに振り回されないために」18ページ——導入として、書くことだけで会話に挑戦する活動をします。書いたものだけで意思の疎通を図ることの難しさについて話し合ってください。携帯電話でメールをやり取りすることに關する問題点を記事の中から幾つか挙げ、この機能を適切に使うにはどのようにしたらよいか話し合ってください。メールに振り回されることなく家族がこの機能を使う方法を計画します。

### 「会員伝道を成功させるには」38ページ——家族の中で事前に割り当



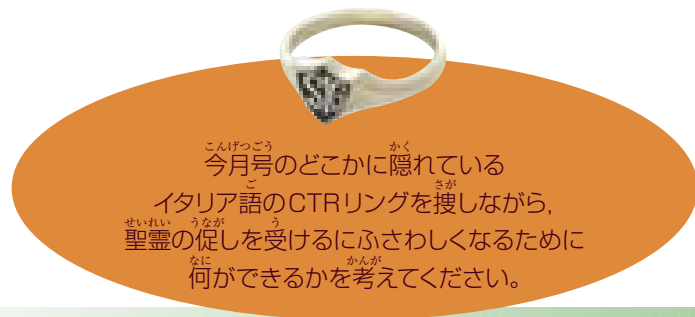
18 携帯電話のメールに振り回されないために



35 希望を知りました

## 青少年

- 17 ポスター——受け取っていますか？ 大切なメッセージ
- 18 携帯電話のメールに振り回されないために  
ラッセル・ウィルコックス、ブラッド・ウィルコックス
- 22 ほんの少しの暴力シーン？ 匿名
- 32 質疑応答——どうすれば安息日を聖く保てるのでしょうか。  
してはならないことばかりに気持ちが向いてしまいます。  
楽しいことが何もできない日ではなく、  
待ち望むような日にするにはどうしたらよいのでしょうか。
- 35 希望を知りました マリアマ・カロン



てておき、記事の中にある経験談を幾つか紹介してもらいます。福音を紹介できると思う友達のリストを作ります。記事にあるアイデアの中から最も効果的だと思うものを選んでロールプレーをしてみましょう。選んだアイデアをいつまでに実行するかを決めてください。

【預言者に従う】F2ページ——特別な家庭の夕べを計画し、家族一人一人に簡単な招待状を作ります。プログラムには歌、祈り、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長のメッセージについてのレッスンが含まれるようにしてください。預言者に従い、充実した家庭の夕べを毎週行うことを家族で決めます。

【警告の声】F10ページ——タッドの話を生に出して読んでください。家族はそれを聞きながら、タッドはいつ自分が間違っているかを感じたのかを考えます。どうすれば家族が似たような状況を避けられるか、自由に意見を出し合ってください。

## フレンド

- F2 預言者の声——預言者に従う  
ゴードン・B・ヒンクレイ大管長
- F4 分かち合いの時間——  
しずかなほそい声に耳をかたむける  
エリザベス・リックス
- F6 スペンサー・W・キンボールだいかんちょうのしょうがいから——しどうしゃになる
- F8 色をぬりましょう
- F9 特別な証人——  
聖餐をとるとき、どんなことを  
考えたらよいのでしょうか？  
ジェフリー・R・ホランド長老
- F10 警告の声 テリー・リード
- F13 おもちゃばこ——せいてんの中のヒーロー
- F14 友だちになろう——日記の世界にとびこもう  
チリのサンティアゴに住むニコル・アントゥネス  
アダム・C・オルソン



F14 日記の世界にとびこもう

### 今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略

愛	26	初等協会	F4
贖い	12	信仰	44
安息日	32	神殿の聖約	25, 44
イエス・キリスト	12	聖餐	12, F9
意思の疎通	17, 18	聖霊	22, F4, F8, F10
一致	46	独身者	2
祈り	46	希望	35
永代教育基金	45	日記	F14
会員伝道	7, 38	扶助協会	25
改心・改宗	7, 35	奉仕	2
家族	2, 7, 26, 35	ホームティーチング	6
家庭の夕べ	1, F2	ポルノグラフィ	F10
家庭訪問	25	メディアの暴力シーン	22
キンボール、スペンサー・W	F6, F14	友情	2
携帯電話のメール	17, 18	人道支援	35
結婚	26, 44	『若人の強さのために』	22
困難に立ち向かう	35, 44	『わたしの福音を の 宣べ伝えなさい』	38
指導者	F6		



# 一人残らず 歓迎しましょう

## 大管長会第二顧問

ジェームズ・E・ファウスト管長

このメッセージを通して、既婚か未婚かを問わずあらゆる教会員が成長し、幸福になる機会を得てほしいと願っています。結婚しているかどうかにかかわらず、自分の生き方を自分で決め、成功を取めるために、天の御父を知るようになることを勧めます。

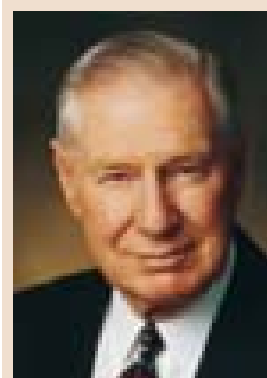
御父を知る最善の方法は、祈り、研究し、戒めを守ることです。天の御父が皆さんを愛しておられること、そして、生活に御父を招き入れるなら、導き支えてくださることを決して忘れないでください。決断をするときは、主とともに行ってください。また自分の価値について考えるときも、主とともに行ってください。失意のときに、天の御父に祈ってください。わたしは、助けを求めるわたしたちの叫びを天の御父が聞いてくださることを証します。預言者ゼノスは、祈りについて深い洞察を示す説教の中で、「わたしが苦難に遭いながらも誠実であったので、あなたはわたしの祈りをお聞きくださいました」と述べています(アルマ33：11)。

多くの独身会員から話を聞き、彼らが共通して抱えている思いを感じると、わたしたちは深く心を動かされ、考えさせられます。中には孤独と失意の日々を過ごしている人もいます。良いビジョップとホームティーチャーに恵まれ、安定した仕事をもち、快適な環境に住むある立派な人物がこう言いました。「もうこれ以上

取り組む事柄を増やす必要はありません。必要なのは一緒に取り組んでくれる人です。」教会の成人会員の少なくとも3分の1が独身であることを考えると、これは真剣に向き合うべき課題です。

独身の人々が感じる孤独のつらさを心に留めるゴードン・B・ヒンクレイ大管長は、少しでもその気持ちを和らげるために、次のような提案をしています。「多くの人にとって、孤独を癒す最良の薬は、人のために働くことだと思います。皆さんの問題を過小評価するわけではありませんが、皆さんよりも深刻な問題を抱えている人がたくさんいるということを、あえて申し上げます。そのような人々に手を差し伸べて仕え、助けと励ましを与えてください。わずかな気配りや励ましがなかったために、暗い学校生活を送っている少年少女が非常に多くいます。苦痛、孤独、不安の中で生活している高齢者の方々がいますが、その多くは簡単な会話があるだけで、ある程度の希望や喜びを感じられるのです。」<sup>1</sup>

忘れないでください。わたしたちは皆、かつては独身でした。現在独身の人もいますし、いつか再び独身になる人もいるでしょう。ですから教会では独身でいるのは決して珍しいことではないのです。結婚していても、いろいろな問題や責任があります。若い花嫁がこのように言うのを聞いたことがあるかもしれません。「結婚したら、わたしの問題はすべて終わりね。」それに対する母親の答えは賢明なものでした。「そうね。でも別の問題が始まるのよ。」



**だ**れよりも  
皆さんのことを  
よく知って  
おられる天の御父は、  
皆さんの才能を、  
そして短所とともに  
長所を御存じです。  
御父は、  
この時代に皆さんを  
現世へと送られました。  
それは皆さんの  
才能と長所を伸ばし、  
磨きをかけるためです。  
御父が皆さんを  
助けてくださることを  
約束します。

## 進歩を測る

結婚したいという望みに心を奪われて、独身の間に得られる成長という祝福と機会を逃してしまっただけでは、何にもなりません。そこで、目標を定めることを勧めます。目標がなければ進歩を測ることはできません。しかし、成功が目に見えなくてもがっかりしないでください。測ることができないものもあるからです。しかしさらに優れた人になりたいと努力するならば、つまり現実的な目標を達成するため、時間と力をできるだけ賢く使って日々最善を尽くすよう努めるならば、結婚しているかどうかにかかわらず、必ず成功します。

独身会員について、ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973年)はかつてこう述べました。「皆さんの中に非常に立派な教会員がいます。忠実な人、力強い信仰を持つ人、また、地上に神の王国を建て、同胞に奉仕するために、主の戒めに

従おうと熱心に努力している人などです。」<sup>2</sup> 身近にいる、こうした優れた人たちに思いやりを示さなかったり、配慮に欠けたりすることが非常によくあります。



ハロルド・B・リー大管長はかつてこう述べました。「幸せは、皆さんの外側で起こっている事柄によるのではなく、内側で起こっている事柄によるのです。それは人生の問題にどのような気持ちで対処するかによって計られます。」

ある神権指導者が、そうした優れた独身女性の一人を気にかけて、善意からこう尋ねたことがあります。伴侶を切望する彼女はもっと充実した生活がしたいと願っていました。「どうして結婚しないのですか。」彼女は、ユーモアのセンス豊かにこう答えたのです。「兄弟、わたしだってそうしたいのです。でも、木からりんごをもぐようには得られませんからね。」

多くの独身会員は、人生とその問題にうまく適応していますが、それでもなお、教会や教会員から愛と関心を受ける必要があります。それは自分が必要な存在であり、一人一人が神から愛されていることを再認識するためです。教会は家庭や家族を重視しており、それは適切で正しいことですが、そのために、伴侶や子供のいない会員の中にはしばしば疎外感を味わっている人もいます。

ある人はこう書いています。「教会員の中には、離婚した女性をまるでハンセン病患者のように見る人が多くいます。わたしは数年間、ソルトレーク市内にある末日聖徒のワードに属したことがあります。そこでは毎年クリスマスの時期になると、伴侶を亡くした男女のためにパーティーが開かれていましたが、わたしは招待を受けたことがありませんでした。わたしは常に正しい生活をしてきました。ですから救い主だったらわたしを招いてくださったに違いないと思います。知人の中には、家族の死と離婚の両方を経験した人がいますが、彼らは、死に別れることよりも離婚の方がずっと大変だと言っています。」

また、このように書いている人もいます。「実際、家族や子供のことを強調するこの教会で、自分たちはまったくなじめないと感じています。自然に受け入れてもらえれば、それはとてもうれしいことです。」

独身だからといって疎外感を味わうなどということがあってはなりません。パウロがエペソの人たちにあてたメッセージにあるように、わたしたちはすべての人に教会の大切な一員であると感じてもらいたいのです。「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ2:19)わたしたちは主の教会に属するだけでなく、互いにも属し、依存し合っているのです。

すべての社会は、父親、母親、家族に特別な関心を寄せています。そうした社会には独身の会員も当然含まれます。数年前、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・バックー会長は、教会の独身会員に向かって次のように述べました。「わたしたちは家族についてよく話します。皆さんはつらい気持ちになり、こう言いたくなることもあるでしょう。『家



族についての話ばかり。でも、自分には家族はないし、……』それ以上言うのはやめてください。『家族の話はもう終わりにしてほしい』などと言わないでください。むしろ、わたしたちがこれからも、家族について、父親や母親や子供たちについて、家庭の夕べや神殿結婚、伴侶としてのあり方などについて話し続けるよう祈ってください。なぜなら、こうしたことがすべて皆さん自身のものになる日が来るからです。もしわたしたちがそれらのことについて話すのをやめてしまったら、皆さんはほかの人々と同じように、約束された祝福が得られなくなってしまいます。』<sup>3</sup> わたしも同じ気持ちです。やがていつの日か、こうしたことはすべて、実際に皆さんのものになるのです。

### 助けが必要な人々を探し求める

良い羊飼いのたとえは有名です。羊の群れを残して、いなくなった1匹の羊を探しに行く羊飼いの話です(ルカ15:3-6参照)。独身の教会員の中には、わたしたちが手を差し伸べなければ迷い出してしまう羊がいるかもしれません。いろいろな方法で手を差し伸べることにより、わたしたちの助けを必要としている

人を探し出すことができます。

独身の人々に手を差し伸べるために、個人として何をしたらよいでしょうか。一つは、もっと交わるように努めることです。教会の集会で一人で座っている人を見つけたら、そばへ行って一緒に座るか、あるいは一緒に座るように招きます。わたしたちは皆、友情の手を差し伸べることができるのです。良い方法を紹介します。ヒンクレー大管長が改宗者について与えた勧告を思い出し、それを一人にいる人にも応用するのです。彼らも、友人、召し、神の善い言葉で養われることが必要です。わたしはさらにもう一つの方法を提案します。それは、良いホームティーチャーです。熱心に働くホームティーチャーは、独身会員の必要に応じたメッセージを用意することができます。また、友情や励まし、受け入れられているという安心感を与えることができます。そして特に独身の姉妹には、神権の祝福を受けることもできるのです。

人に独身者というレッテルをはり、それ以外の見方をしないということは、ありがちなことです。独身でいるのは特別なことではなく、彼らも普通に扱われて当然です。彼らのすべてが自ら選んで独身でいるわけではありません。

**教** 会指導者に  
対する指針には  
こうあります。

「独身会員のために、  
ファイヤサイド、  
ダンス、聖歌隊、  
神権準備セミナー、  
神殿準備セミナー、  
神殿参入、文化的行事、  
スポーツなどの  
ステーキおよび  
ワードの活動を  
実施すべきである。」

詩篇の作者が言うように、「みなしごの父」になろうではありませんか。また、「神は寄るべなき者に住むべき家を与え」られることを忘れないようにしましょう(詩篇68:5-6)。わたしたちは皆、神の家族の一員であり、いつの日かみもとに戻り、神がその子供たちに備えておられる家に住むのです。

### 指導者はどのように助けることができるか

教会指導者のための指針を幾つか紹介しましょう。「ビショップリック[あるいは支部会長会]は、家庭に子供がいない独身会員および親と同居していない独身会員のために、一つまたは複数の家庭の夕べのグループを組織できる。」<sup>4</sup>さらに、次のような指示があります。「独身会員のために、ファイヤサイド、ダンス、聖歌隊、神権準備セミナー、神殿準備セミナー、神殿参入、文化的行事、スポーツなどのステークおよびワードの活動を実施すべきである。」<sup>5</sup>

教会の指導者は、指導者会で定期的に、独身会員が何を必要としているかを深く考える必要があります。そして彼らに有意義な召しや割り当て、活動の機会を与えるようにすべきです。定例会や扶助協会の指導者は、独身会員が何を必要としているのかを敏感に感じ取る必要があります。特にレッスンが結婚や子供といった話題に触れる場合にはなおさらです。独身の会員も、覚えられ、霊の糧を受ける必要があるのです。

### 今、幸せになる

独身であるからといって、幸せになるのを先送りにしなければならないということはありません。ハロルド・B・リー大管長(1899-1973年)はかつてこう述べました。「幸せは、皆さんの外側で起こっている事柄によるのではなく、内側で起こっている事柄によるのです。それは人生の問題にどのような気持ちで対処するかによって測られます。」<sup>6</sup>

独身の人々の多くは家族や周りの人たちが大いに必要としている力を与えることができます。それを忘れないでください。甥や姪、兄弟や姉妹、親戚の人たちを支え、受け入れ、愛することができます。このように、ある意味では、独身の人々も自分に与えられた才能を用いて親の務めを果たすことができます。そうすれば大きな影響を与えることができます。なぜなら、親が子供に言えないことを、はっきりと言える場合がよくあるからです。

最後に独身の皆さんに勧めたいと思います。度々祈ってください。だれよりも皆さんのことをよく知っておられる天の御父は、皆さんの才能を、そして短所とともに長所を御存じだからです。御父は、この時代に皆さんを現世へと送られました。

それは皆さんの才能や長所を伸ばし、磨きをかけるためです。御父が皆さんを助けてくださることを約束します。御父は皆さんが何を必要としているかを御存じです。やがて伴侶を得るという約束が祝福として成就する日が来るでしょう。■

### 注

1. 「独身成人との語らい」『聖徒の道』1997年11月号, 20
2. Strengthening the Home (パンフレット, 1973年), 8
3. メルキゼデク神権MIA大会, 1973年6月。ジェームズ・E・ファウスト, “Happiness Is Having a Father Who Cares,” *Ensign*, 1974年1月号, 23で引用
4. 『教会指導手引き 第1部——ステーク会長会およびビショップリック(2006)』125-126
5. 『教会指導手引き 第1部——ステーク会長会およびビショップリック(2006)』126
6. “A Sure Trumpet Sound: Quotations from President Lee,” *Ensign*, 1974年2月号, 78

## ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 助けが必要な人々を探し出すようにというファウスト管長の勧告について話し合う。会員また会員でない独身の人を訪ねて楽しい時間を過ごすよう、家族に勧める。その人が歓迎され、大切にされていると一そう強く感じるために、ほかにどのような助けができるか、家族に提案させる。一緒に過ごすことにより、その人についてもっとよく知るように勧める。

2. 話し合いやゲームといった活動でレッスンを始める。その活動をしている間、一人に数分間、部屋から出てもらう。その人を部屋に呼び戻し、次の人に外へ出てもらう。全員がそれを行った後、一人でいるときにどのように感じたかを皆で話し合う。ファウスト管長の「わたしたちは皆、かつては独身でした。現在独身の人もいますし、いつか再び独身になる人もいます」という言葉を読む。一人一人が、置かれている状況に関係なく、どうしたら人生を幸福で有意義なものにすることができるかについて話し合う。

3. 定規か巻尺を用意し、それを見せながら「進歩を測る」の項に述べられた助言を紹介する。自分の人生をどのように測ったらよいかについて話し合う。優れた者となるよう努力するなら、成功できると証する。



# 始まりは 1枚のパンフレットから

韓国のある若い郵便局員は、探し求めていた答えを見いだしました。  
家族は耳を傾けてくれるでしょうか。

ドン・L・サール

教会機関誌

1969年のある夏の日、韓国の春川<sup>チュンチュン</sup>で伝道していた若い宣教師が、郵便局で外国郵便を扱っていた職員に人生の目的について書かれたパンフレットを手渡しました。この長老は恐らく、これをきっかけに多くの人が改宗するとは思っていませんでした。



そのことは、パンフレットを受け取った郵便局員の曹仲鉉<sup>チョチュンヒョン</sup>も知りませんでした。郵便の仕事に就いた仲鉉は、なぜ生まれ育った朝鮮半島の南端近くの町である順天<sup>スンチュン</sup>から遠く離れたこの地で勤務することになったのかわかりませんでした。このパンフレットを受け取るために、あのときあの場所にいなければならなかったことを知ったのは後になってからでした。

この小さな出来事は彼の家族全員の改宗につながり、その後、彼らの影響を受けた大勢の人たちもバプテスマを受けることになりました。しかし、仲鉉<sup>チュンヒョン</sup>の家族全員が改宗するまでには多くの苦労がありました。「皆がバプテスマを受けるには20年以上の月日が必要でした」と語る仲鉉の努力によって、両親ときょう



上——曹家族で  
 最初に教会へ導かれた  
 曹仲鉉と  
 妻の李賢娥姉妹。  
 仲鉉は現在、  
 出身地である順天の  
 支部会長を務める。  
 右ページ——  
 1990年代初頭の  
 曹家族。親族の集いで。



だい、きょうだいの配偶者や子供たちも、福音の祝福にあずかるようになったのです。

仲鉉自身の改宗も簡単なものではありませんでした。宣教師にもらったパンフレットは「とてもよかった」と彼は言います。以前に出席していたキリスト教会では見いだすことができなかった人生の目的について答えが書いてあったからです。それでも、得体の知れないアメリカの教会の教えなど真に受けることはできないと考え、パンフレットを引き出しにしまい込み、しばらくはそのまま忘れていました。

友達と酒を飲んだりビリヤードをしたりして夜を過ごしていた仲鉉は、ある日の早朝、寢床の中で、こんな生き方を変えなければならぬと考えました。そのとき、答えをくれたあのパンフレットのことを思い出したのです。

初めて末日聖徒の集会に出席したときの印象はあまりよいものではありませんでした。記憶によると、借りていた建物は小さく、日曜学校の出席者は宣教師と料理人、おばあさんと子供が二人、それに大学生が数人だけでした。

教会に対して警戒してはいましたが、あのパンフレットがくれた答えと、謙遜な若い長老たちの証があったので、宣教師との福音の勉強は続けました。宗教について長老たちと議論したこともありましたが、長老たちがモルモン書から聖句を引用したときなどは、「この人たちは作り話が上手だ。まるで聖書を読んでいるみたいだ」と思いました。長老たちはモルモン書を彼に手渡しました。表紙には、これを読む人は聖霊によってこの書物が真実であることを知るであろうというモロナイ第10章3-5節の約束が手書きで記されていました。ジョセフ・スミスのお話を思い出した仲鉉は山に行き、自分の好きな場所に着くと独りで祈りましたが、そのときは答えをもらえませんでした。

「この書物は真実である」

ある日、図書館でモルモン書と教義と聖約を読んでいると、仲鉉は次のように言う声をはっきりと聞きました。

「これらの書物は真実であり、わたしのものである。」ほかにもこの声を聞いた人がいないかと辺りを見回しました。しかし、この答えが自分だけに与えられたのだと分かったら、涙が頬を伝いました。

1969年にバプテスマと確認を受けると、仲鉉の生活は変わりました。以前は不快に思っていた人や物事に対して悪感情を持つことがなくなりました。何も変わっていないのに、周りが美しく見えるようになりました。そして宣教師たちと一緒に戸別訪問をし、証を述べました。

ベトナム戦争の間は、軍務に就くためにしばらく伝道を中断しなければなりませんでしたが、しかし1970年代中ごろに順天の実家へ戻ると、再び福音を伝え始めました。

順天に教会員は一人もいませんでした。この状況を変える一つの方法として、会った人にモルモン書を渡すことにしました。「真実で尊いこの書物を分かち合わなければと思ったのです」と彼は言います。成果はほとんど上がりませんでした。宣教師としての彼の最も大きな影響力は、自分のきょうだいに対して発揮されることになりました。

いちばん下の妹の曹聖慈（韓国の女性は結婚後も苗字が変わりません）は、兄の仲鉉がきょうだいを集め、家族の夕べを開いて福音の原則を教えることから伝道を始めていたと振り返ります。やがて仲鉉は、彼らを宣



教師に紹介するようになりました。

聖慈<sup>スンジャ</sup>はためらうことなく福音を受け入れました。彼女はジョセフ・スミスの最初の示現が真実であると聖霊が証してくださるのを感じました。聖慈<sup>スンジャ</sup>はほかの教会の人たちから、ヨハネの黙示録にある、この書物に書き加えてはならないという警告の部分を見せられていました（黙示22：18-19参照）。しかしある日、モルモン書を開いてニーファイ第二書の第29章を読んでいると、さらなる啓示の必要性が書かれており（11-14節参照）、これが真実であると再び御霊<sup>みたま</sup>が証するのを感じました。

父親は聖慈<sup>スンジャ</sup>が教会に入ることに反対でしたが、彼女の祈りが聞き届けられ、ついには承諾してくれました。1976年、16歳の彼女はバプテスマと確認を受けました。

### 信頼により導く

道を開いてくれた兄 仲 鉉<sup>チュンヒョン</sup>のように、聖慈<sup>スンジャ</sup>も自分が見いだした福音を人々に伝えたいと思いました。学校では友達に進んで福音について話し、そのうちの5人がバプテスマと確認を受けました。

聖慈<sup>スンジャ</sup>のもう一人の兄である曹用鉉<sup>チョヨンヒョン</sup>もきょうだいとともに宣教師から福音を学んでいました。両親はレストランの経営に忙しく、次男の仲 鉉<sup>チュンヒョン</sup>がしばしば弟や妹たちの世話を任されていました。弟や妹たちは皆仲 鉉<sup>チュンヒョン</sup>を愛し、その判断力を信頼するようになりました。用鉉<sup>ヨンヒョン</sup>はこう言っています。「兄をととても尊敬していたので、福音を教えられるとすぐに受け入れることができました。」

しかし用鉉<sup>ヨンヒョン</sup>の改宗は、兄の証だけが生んだものではあ





上——曹家族の中で  
兄 鉉に次いで  
教会に入った曹聖慈。  
右ページ——  
3番目に教会に入った  
曹用鉉と妻の李恩淑、  
長女の慧仁(中央)、  
曹吉子と夫の申昊鉉

りません。用鉉は真理について自ら強い証を得ると、会員になってからは主に忠実に仕えることに専念しました。

献身的な奉仕を続けていた用鉉は、大学で学んでいたとき、伝道に出たいと思うようになりました。父親は反対でしたが、用鉉は帰って来たらもっと熱心に勉学に励むことを約束し、父親から承諾を得ることができました。そして用鉉はその約束を守ったのです。

数年後、用鉉が教会教育システムへの就職を勧められると、教会のことで再び父親と衝突するようになりました。当時用鉉は石油精製会社に勤め成功していましたが、教会での職に就き、1986年以来、韓国南部の廣州で教会教育システムのコーディネーターとして働いています。父親は、一流会社の高い地位を去り、アメリカで生まれた知名度の低い教会のために働くなどもったいないと、転職に反対しました。そして用鉉が仕事を変えると決めたときには激しく泣いて、親子の縁を切ることまで考えた後に話しています。幸いなことに、二人の間の溝は埋まりました。

曹家族の子供たちは、福音を勉強しその教えに従った生活をするのを妨げる一番の強敵はだれだったかと聞かれれば、父親だと声を合わせて言うことでしょう。彼らの父親は子供に厳しく、家長としての伝統的な父親の役割を果たすうえで子供が従順であることを当然と考えていました。

### 答えは奉仕

仲 鉉のきょうだい全員が教会をすんなりと受け入れたわけではありませんでした。次女の曹吉子が感じていた疑問の一つは、ほかの教会の聖職者は報酬を受けているのに、なぜ兄は教会のために多くの奉仕をするよう求められながら無報酬なのかということでした。恋をし、結婚をして、幼い子供たちを育てるようになって初めて、吉子は宣教師の話を聞いてほしいという兄の願いに応じることにしました。

宣教師たちにモルモン書を読むよう勧められると、彼女は夢中になり、3日間で読み終えました。その教えについて祈るようというモロナイの勧告に従い、モルモン書にある教えが真実であるという強い確証を得ました。そのとき、「わたしにも神のために何かできることがあるに違いないと感じました」と語る吉子は、その答えとして、自分も教会に出席して奉仕するべきだと感じました。

幼いころから、吉子は奉仕の大切さを模範によって学んでいました。吉子の母親はいつもこの原則に従って生活し、自らがこの教会に加わる前から、教会員に奉仕していたのです。吉子の母親は教会の会員、そして福音を教えに来る姉妹宣教師たちを愛するようになりました。しかしそれまで信じてきた宗教を去るのは容易ではありません。戸棚の中には小さな仏像があって、彼女はその仏像に向かって毎日手を合わせて祈っていたのです。しかし、あるとき見た夢が改宗への転機となりました。仏像に祈っていると、絵の具で描かれた仏像の目から涙がこぼれ始め、仏像がゆっくりと彼女に背を向けたのです。この夢を見たとき、彼女は新しい宗教を信じる時が来たことを理解しました。

母親がバプテスマと確認を受けてから3年後、まだ改宗していない唯一の家族となった父親もとうとう福音を聞くようになり、教会に入りました。すると父親は別人のようになりました。子供たちに言わせると、以前より優しく、親切で、寛大になったのです。

一つとなった家族  
仲 鉉がバプテスマを受けてからおよそ26年がたち、ようやく家族全員が教会員になりました。両親が韓国ソウル神殿で受けた結び固めは、家族に最高の喜びをもたらしました。またその後の集まりで、かつて父親が幼い子

供たちに歌って聞かせた子守歌を、曹家族の子供全員が歌った場面は感動的なものとなりました。

母親はこの世を去るまで教会で忠実に奉仕しました。胃癌で入院していた間も、隣のベッドの若い女性に福音を紹介していたのです。

彼女の息子や娘たちは奉仕という伝統を受け継いでいます。家族の中には曹会長が二人います。教会教育システムコーディネーターの用鉉は長年にわたって神権指導者として様々な召しを受け、現在は広州でステーク会長を務めています。開拓者として家族を教会へ導いた仲鉉は、順天で地方部長など多くの指導的な役割を果たし、現在は順天支部の支部会長をしています。吉子はワードヤ

ステークで16年以上も扶助協会会長として奉仕しています。他のきょうだいたちもそれぞれの地で活躍しており、熱心な会員と結婚しています。

これまでに曹家族では7人の子供と孫が伝道に出ています。ほかにも何人かが伝道に出る準備をしています。帰還宣教師と結婚した子供や孫もいます。今では曹家族の4世代目が教会で育っています。家族に試練がなかったわけではありませんが、従順を通して祝福を受けています。

もう40年近くも前、若い郵便局員にパンフレットを渡した宣教師は、自分がまいた小さな種から何が育つのかを知る由もありませんでした。しかし実りは豊かでした。しかも、それはまだ始ったばかりかもしれないのです。■



# キリスト教の教義の根幹

トーマス・B・グリフィス

**ゴ**ードン・B・ヒンクレー大管長は、福音がわたしたち自身の心に、そしてわたしたちが愛し仕える人々の心に根ざすよう、より努めなければならないと教えています。ヒンクレー大管長の勧告に従う一つの方法は、イエス・キリストの贖い<sup>あがな</sup>に目を向けることです。

以前、十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長は、仲保者イエス・キリストが示された憐れみ<sup>あわ</sup>みについて次のように話しました。「これはキリスト教の教義の根幹です。あなたの福音に対する知識は豊富かもしれませんが、もし枝葉の部分しか知らず、しかも、それが根に関係のない、真理から離れたものであるならば、

そこに生命も実質も贖い<sup>あがな</sup>もありません。」<sup>1</sup>

わたしたちがその根につながる方法、そしてつながる過程で、福音を自分の心や自分が仕える人々の心に根付かせるための、3つの提案をしたいと思います。

「二人の心」ウォルター・レーシー画  
教五所史実業補補務館の厚意により掲載

### 主の苦しみのしるしとして聖餐を取る

神殿推薦状を受けるための面接では、このような質問をされます。「キリストの贖いと、救い主、贖い主としての主の役割について証を持っていますか。」うれしいことに、ビショップとステーク会長を務めていた間、その質問に対して「はい」以外の答えは一度も聞きませんでした。しかし長年の間、その質問の大切さをわたし



### 常にキリストを覚える

「傷つき苦しまれたキリストこそ、わたしたちの魂の主であり、主の体には今でも犠牲の傷跡、愛と謙遜と赦しの傷跡があるのです。」

この傷跡を、老いも若きも、また当時の人も現代の人も、すべての人が進み出て、目で見、手で触れるように、主は勤めておられます（3ニーファイ11：15；18：25参照）。そうすれば、イザヤが述べたように、主がわたしたち一人一人のために「侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた」（イザヤ53：3）ことを思い起こせるでしょう。若い祭司がひざまずき、常にキリストを覚えるようにと祈りをささげるとき、わたしたちは以上の事柄を思い起こすことができるのです。」

十二使徒定員会  
ジェフリー・R・ホルランド長老  
「わたしを記念するため、  
このように行いなさい」  
『聖徒の道』  
1996年1月号、75

せ い さん  
**聖餐**の  
パンと水は、  
深い感謝と  
けいけん  
敬虔の念を起こさせる、  
輝かしい象徴です。

私たちは十分に理解していないのではないかと  
いう懸念を抱いていました。キリストの多くの  
役割の中で、救い主、贖い主としての役割につ  
いてのみ質問されることには、特別な意義があ  
ると思います。この二つの役割には、神殿に関  
して特に重要な意味があるに違いありません。  
神殿は主が聖約を通してわたしたちを御自身  
に結びつけられる場所です。

ステーキ会長を務めていたとき、ステーキの  
会員たちが「キリストの贖いについての証、そ  
して救い主、贖い主としての主の役割につ  
いての証」を持っているかどうか心配でした。大部  
分の会員がキリストを愛していることは感じ  
取っていました。これも重要なことですが、わ  
たしが心配したのは、彼らの多くが主を救い  
主(自分たちを救ってくださった御方)、または  
贖い主(自分たちの罪の代価を支払ってくだ  
さった御方)として認識していないのではない  
かということです。ある日、このことについて考  
えながら第三ニーファイ第11章を読んでいる  
と、初めて気づいたことが幾つかありました。

この章に出てくる人々は、預言者たちの警告  
を心に留めて生き残った義にかなった人々で  
す。彼らは主とお会いする用意ができていま  
した。復活した主が彼らに御姿を現されたとき、  
主は「片手を差し伸べて」、主の犠牲の象  
徴と証拠である傷跡を示されました。

主は「人々に言われた。『見よ、わた  
しはイエス・キリストであり、世に来  
ると預言者たちが証した者である。』」(3ニーファイ11：9-10)

次に、主はこう言われました。「わ  
たしは世の光であり命である。わた  
しは、父がわたしに下さったあの苦  
い杯から飲み、世の罪を自分に負うこ  
とによって父に栄光をささげた。わたしは  
世の罪を負うことによって、初めから、すべて  
のことについて父の御心に従ってきた。」(3ニー  
ファイ11：11)

これこそ主が人々にお伝えになったことで  
した。主は、預言者たちが証した「油注がれた  
者」です。主は創造主であり、わたしたちのた  
めに苦しまれた御方です。

人々の反応に注目してください。「イエスがこ  
れらの御言葉を語り終えられると、群衆は全員  
地に伏した。彼らは、キリストが……自分たち  
に御自身を現されることが預言されていたのを  
思い出したからである。」(3ニーファイ11：12)

その後起きたことは、わたしにとって、こ  
の場面で最も神聖な部分です。イエスは彼ら  
に、一人ずつ進み出て、あるつらいことをする



ように命じられました。「立ってわたしのもとに来て、あなたがたの手をわたしのわきに差し入れ、またわたしの両手と両足の釘の跡に触れて、わたしがイスラエルの神であり、全地の神であること、そして世の罪のために殺されたことを知らなさい。」(3ニーファイ 11：14)

この人々は主の受難の象徴に手で触れました。「群衆は進み出て、主のわきに手を差し入れ、また主の両手と両足の釘の跡に触れた。彼らは一人ずつ進み出て、全員がこのようにし……た。」(3ニーファイ 11：15) 2,500人全員が触れたのです。

次に起きたことに注目してください。

「彼らは全員進み出て、自ら確認した後、一斉に叫んだ。

『ホサナ。いと高き神の御名がほめたたえられますように。』そして、彼らはイエスの足もとに伏して、イエスを拝した。」(3ニーファイ 11：16-17)

この人々が2度目にイエスの足もとに伏したときに、彼らは「イエスを拝」しました。最初に地に伏した理由は、いろいろ考えられます。恐怖、畏敬、周囲の圧力などです。しかし2度目は、主を礼拝するために地に伏したのです。このように異なる反応をしたのはなぜでしょうか。2度目には「ホサナ」と一斉に叫びました。これは、「今、わたしたちを救ってください」という意味です。なぜこの人々は、今、救ってくださるようキリストに叫び求めたのでしょうか。

考えられる一つの答えはこれです。その人々は従順でしたが、主が自分の救い主であられることをまだ認識していなかったのかもしれませんが。救われる必要性をまだ実感していなかったからです。彼らは善い行いに満ちた生活を送ってきました。イエスが神であり、模範であられることを知っていました。しかし、まだイエスを救い主として認識していなかったのかもしれませんが。彼らが祈ったのは「過去にわたしたちを救ってくださったこと、そして今日、御姿を現して、そのことを思い起こさせてくださったことに感謝します」ではありませんでした。彼らの祈りは、その瞬間に抱いていた懇願でした。「ホサナ」、すなわち「今、救ってください」。このことから、人々が主を救い主として認識し始めたと言えます。

善良で従順な人々を、救い主としてのイエス・キリストを知る善良で従順な人々へと変えたのは何だったのでしょうか。その足もとに伏して主を礼拝させたものは何だったのでしょうか。それは主の受難の象徴に手で触れたことです。

それこそが、わたしのステーキの会員たちがキリストを救い主、贖い主として知ることができるようになるために必要なことでした。すなわち、主の受難の象徴に実際に触れることです。ではどのようにすれば実際に触れることができるのでしょうか。すると、このような思いが浮かびました。——毎週日曜

日、聖餐を取るときにその経験をしているのだ。わたしたちははりつけにされた主の体のしるしとして、割かれたパンを食べます。主が流された血の象徴として、水を飲みます。これは深い感謝と敬虔の念を起こさせる、輝かしい象徴です。

主の晩餐である聖餐式を行うとき、わたしたちは心の中でキリストに「今、わたしたちを救ってください」と叫び、主を礼拝するために地に伏したいと思うのです。

### 主の犠牲について深く考える

わたしたちやわたしたちが仕える人たちの心に福音が根を下ろすには、イエス・キリストが罪を贖われた際に起きた出来事を詳しく知り、本質を捉え、心で感じ取るようになる必要があります。教義と聖約第19章で、主は御自身が耐えた苦難について詳しく語っておられます。

「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。……

その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。そしてわたしは、その苦い杯を飲まずに身を引くことができればそうしたいと思った。」(16, 18節)

わたしたちが礼拝するのは、どのような神でしょうか。人類に対して無限で永遠の愛を持っておられる神です。人類への愛のゆえに強さを得られ、人類のために苦しみに耐えられた神です。神はわたしたちがそのことを知るように望んでおられます。この知識は、従順と感謝をもって生活を神にささげるに十分な理由をわたしたちに与えてくれるはずで

少し前に、キリストの受難を写實的に描いた美術作品について、二人の人が熱のこもった討論をしているのを耳にしました。一方はその作品に反対して言いました。「キリストがどれほど苦しまれたか考えさせられるのは嫌だ。」そのようなことを言うのは不思議だとわたしは思いました。主がどれほど苦しまれたかを完全に理解できないとしても、主が苦しまれたことについて考えるのを避ける権利はだれにもないと思うからです。

「キリストのもとに来る」ように(モロナイ 10：30, 32)という勧告をもってモルモン書の記録を終える前に、モロナイは父親から受け取った個人的な手紙を紹介しています。その手紙は彼に大きな影響を与えたに違いありません。そしてモロナイは、わたしたちもその手紙から強い影響を受けることを願ったのでしょう。「わが子よ、キリストに忠実でありなさい。わたしの書いたことを悲しんで、打ちひしがれて死ぬこ

とのないように。キリストに支えられて、キリストの苦しみと死と、キリストがわたしたちの先祖に御自分の体を示されたことと、キリストの憐れみと寛容と、キリストの栄光と永遠の命とを願う望みが、とこしえにあなたの心の中にとどまるように。」(モロナイ9:25)

わたしたちの思いの中にとこしえにとどめるべき事柄の中には、キリストの「苦しみと死」があります。主がわたしたちを救うために支払われた代価について考えるのを避けるべきではありません。賛美歌はこの真理を思い起こさせてくれます。

「突き刺されし主の 手を思い  
その愛と恵み 忘れ得ず」<sup>2</sup>

「カルバリの十字架に 血流して  
死にし救い主 思わせたまえ」<sup>3</sup>

「救われし者 わが業思え  
血の汗をもて 十字架の上に  
汝らの罪 贖いにけり」<sup>4</sup>

最近、ある聖餐会で、話者が有名な聖句を読み上げるのに合わせて、わたしもその部分を目で追っていました。「人の価値が神の目に大いなるものであることを覚えておきなさい。」(教義と聖約18:10)すると、次の節が述べている一つことに初めて気づき、それが頭から離れなくなりました。人の大いなる価値を証明するために、主はこのように言われたのです。「見よ、主なるあなたがたの贖い主は、肉体において死を受けた。それによって、すべての人が悔い改めて自分のもとに来ることができるように、主はすべての人の苦を引き受けた。」(教義と聖約18:11, 強調付加)

主の苦しみは主の愛を証明するだけではありません。それ以上のものです。主の苦しみはわたしたちが「悔い改めて主のもとに来る」ことができるように主が用いられる手段なのです。主がわたしたちのためになさったこと、特に主がわたしたちのために苦しまれたことをある程度理解するようになると、神の子供であるわたしたちは自然と、神に従うことで感謝と愛を示したいと思うようになります。わたしの考えでは、この節は心の中に深く福音を根付かせる方法について主御自身が説明して下さった最も簡潔かつ深遠な言葉です。

悔い改めて主のもとに来るように説き勧める最良の方法は、主がわたしたちのためになさったこと、特に主がわたしたちのために苦しまれたことについて考えさせることです。主が取られるのはこの方法です。

## 主を覚える

数年前、わたしは七十人のジェラルド・N・ランド長老がロッククライミング関連の雑誌の記事を引用するのを聞きました。ビレイ(登山者の安全を確保し、滑落を防ぐ方法)についての記事でした。一人の登山者が安全な体勢を取り、ロープを一定の位置で締めると、仲間に「ビレイ完了」と呼びかけます。これは、「あなたを支えますよ」という意味です。クライミングスクールのディレクターであるアラン・チェンクシュ氏はその記事の作者に、ビレイに関する自分の経験を語りました。

「ビレイは、チェンクシュにロッククライミングにおける最高と最悪両方の経験をもたらしている。あるときチェンクシュは高い断崖から滑落した。そのはずみで3つのサポート器具が岩棚から抜け落ち、ビレイをしてくれた仲間も岩棚から引きずり落とされた。しかし広げた両腕の力で仲間が落下を食い止めてくれたおかげで、チェンクシュは地上から3メートルの所で、逆さまに宙づりになって命拾いました。

チェンクシュはこう述べている。『ほくの命を救ってくれた仲間はドンといいます。そのような人に対して恩返しをするのであれば何を渡しますか。クリスマスプレゼントに使い古しのロープを上げるでしょうか。違います。その人を忘れないのです。その人のことをいつまでも忘れないのです。』<sup>5</sup>

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこのように教えています。

「全人類を救うために御自身の命をささげてくださいました贖い主のあの大きな代価を、この教会の会員は決して忘れてはならないということです。ゲツセマネの園における苦悶、裁判のときにお受けになったひどいあざけり、肉に食い込んだ残酷なばらの冠、ピラトの前における暴徒たちの血に飢えた叫び、独りで重い十字架を背負い、よるめき進まれたカルバリへの道、大きな釘で手足を刺し貫かれたときの激痛……。

わたしたちはこれらのことを忘れられません。決して忘れてはならないのです。救い主、また贖い主、神の御子である御方は、この十字架の上で、わたしたち一人一人のための身代わりの犠牲として御自身をささげられたのです。』<sup>6</sup>

主と、主がわたしたちを救うために払って下さった代価を、わたしたちがいつも覚えていることができますように。■

2006年3月14日、ブリガム・ヤング大学におけるディボーションの説教から。

## 注

1. 「仲保者」『聖徒の道』1977年10月号, 486参照
2. 「主イエスの愛に」『賛美歌』109番
3. 「われら祈りまつる」『賛美歌』97番
4. 「敬い崇め」『賛美歌』104番
5. エリック・G・アンダーソン, “The Vertical Wilderness,” *Private Practice*, 1979年11月号, 21で引用
6. ゴードン・B・ヒンクレー「わたしたちの信仰の象徴」『リアホナ』2005年4月号, 4

受け取っていますか？

# 大切な メッセージ

みたま  
御霊はあなたにも話しかけようとしています。  
あなたは耳を傾けていますか？  
(教義と聖約 11 : 13 参照)

おーい!

ねえ  
ちよつと!

携帯電話の  
メールに  
振り回され  
ないために

ラッセル・ウィルコックス、  
ブラッド・ウィルコックス

**彼**女とまた会えるのはほんとうに楽しみだわ。」友達との特別な再会を前にして、ある若い女性が両親に何度もこう言いました。遠く離れた町で生活していた彼女は、最近実家に戻って来たばかりでした。この日が来るのをずっと前から心待ちにしていたのです。

友達とは満面の笑みで再会しました。抱き合い、笑い合いながら、旧交を温めようと出かけて行きました。しかし、両親が驚いたことに、彼女は予定よりもずっと早い時間に帰宅したのです。

「一体どうしたの？」と両親は尋ねました。

「昔みたいにおしゃべりができると思って楽しみにしていたのに、一緒にいる間、彼女はずっとほかの友達と携帯メールのやり取りをしていたの。」そして悲しさと落胆の表情をありありと浮かべ、強い調子でこう言いました。「メールなんか発明されなければよかったのに!」

すべての通信手段と同様、メール機能付き携帯電話は、使い方次第で益にもなれば害にもなります。メールに届いた誕生日のお祝いメッセージのおかげですばらしい一日になった、あるいはメールで迅速かつ効果的に危険を知らされたおかげで大惨事を免れたといった話は耳にしたことがあるでしょう。それでも、日曜学校やセミナーの間に10代の若人が友達とメールをしている、もらったメールの内容に傷つけられる、あるいは最初の話のように、ほかの人とのメールのやり取りを優先し、目の前にいる人をないがしろにしたり無視したりするといった好ましくない使用例があるのも事実です。

パソコンのメールと同様、携帯メールも気持ちを伝えたり、良い関係を築いたりするうえで素晴らしい手段となり得ます。だからといって携帯メールが人間関係そのものになるというわけではありません。きちんとしたルールを作り、その範囲で使うのなら携帯メールは有意義なものとなります。しかし、メールに振り回されるようなら、問題が起こったり害を受けたりする場合すらあるのです。

### 気がかりな風潮

帰還して間もない数人の宣教師に携帯メー

ルのやり取りについて尋ねました。携帯メールのない環境で伝道してきた彼らは、帰還してから気がかりな風潮があることに気づいたと言います。そしてメールのやり取りがいかにうその安心感を生み、コミュニケーションを取る技術を低下させるかについて、またそれがどのように人間関係を希薄にし、人を無感情にするかについて語ってくれました。

「メールのやり取りをしていると、自分の周りに安全な壁があるような錯覚に陥りやすくなります」と一人の帰還宣教師は言います。「メールだと無遠慮な意見や意地悪な返事をいとも簡単に送ることができます。そんなメールを送っても自分には何の害もないと思うからです。」そのような感情は必ずしも健全とは言えません。それは安全な自分の車の中から、ほかの車を運転している人にどなりつけるようなものです。離れているので、面と向かっては決して言えないようなことも言えるのです。何時間もかけて書いたレポートや作文について、厳しく、残酷とも言える感想を先生に書かれたことはありませんか。生徒を落胆させるような感想を先生が述べることができたのは、距離があったからです。もし顔を合わせての会話だったら、もっと配慮のある、言葉を選んだ言い方になっていたことでしょう。

別の帰還宣教師は、メールのやり取りでは良いコミュニケーション技術は身に付かないと言う意見を述べました。「携帯メールでは、数分以上会話を続けられるような技術はいつまでたっても身に付きません」と彼は言います。

「しぐさや表情など、言葉

以外の方法で相手の

伝える意図をくみ取る

技術も学ばませ

ん。」大学のキャン

パスや空港で、

だれもが自分の目

の前にはいないだれか

と携帯電話で連絡を取り合い、

自分の目の前こっけいにいる人たちが完全に

無視している様子が何とも滑稽に感じ

ると言うこの帰還宣教師は、次のよう

にも語りました。「近くにいるほかの出

演者や助手、ファンをないがしろにする

携帯メールの  
やり取りは  
良いか悪いか。  
それは  
使い方次第  
です。



**機** 会を見つけて  
だれかに  
話しかけ、  
新しい友人を  
作ってください。  
相手に直接話しかけて  
関心を示すなら、  
より深く  
思いやりに満ちた  
友情を築くことが  
できます。

一方で、その場にはいない映画の観客やCDの購入者にアピールすることに夢中になっている自己陶醉型のスーパースターと同じくらい奇妙に思えます。」

「恐らくメールのやり取りが持つ最大の欠点は、人から孤立したままの状態が続くということでしょう」というのが別の帰還宣教師の意見です。人と人とのつながりは、銀行口座のようなものです。預金しないかぎり、利子はずきません。手を差し伸べ、人と交わる努力を払わないならば、得るものはほとんどないのです。この帰還宣教師はこう語っています。「求道者に接する場合と似ています。相手に心を注がず、気にかける努力もしなければ、自分たちのメッセージを拒否されても、大した苦痛は感じないかもしれません。しかし、文字どおり自分のすべてをつぎ込んだ場合に起こったかもしれない素晴らしい出来事を経験することも決してないのです。」人と人との交わりはわたしたちの生活に欠かすことのできないものですが、メールのやり取りは、そうした交わりからあっさり感情を抜き取る力があります。「香辛料

を何も入れないで料理を食べるようなものです。きっと物足りないと感じることでしょう。」

### 正しい使い方をする

どうすればこの欠点を避け、適切にメールのやり取りができるのでしょうか。帰還宣教師たちは次のようなすばらしいアドバイスをしてくれました。——携帯メールは周りに人がいないときにする。メールという電子的なやり取りばかりに偏らず、実際に人と会うといった非電子的なコミュニケーションも行うようにする。メール以外の様々な趣味や娯楽を行う。

「人に話しかけましょう」と帰還宣教師の一人は言います。「知らない人と会話を始める方法を学ぶことです。例えば、『ご出身は?』または『ここに住んでもう長いのですか?』などと尋ねるのです。新任の宣教師にとってこれは最も大変なことのひとつですが、決して難しくはないのです。床屋で髪を切ってくれる人や店でレジの順番を待っている人に話しかけるのは、それほど大変なことではないはずですが、町で見ず知らずの人に話しかけなさいというわけではありません。地下鉄で隣になった人と短く話したり、何か尋ねたりするだけでいいのです。



「メールをしたり、メッセージを聞いたりすることは今すぐしなくてもいいのです。電話で話すことさえも後回しにできることがあります。人前ではなく、一人になったときにしてください」と語るのは先ほどコメントした帰還宣教師です。「わたしの伝道部会長は携帯電話を持っていましたが、大会や面接のときはいつもマナーモードにし、決して電話に出ませんでした。伝道部会長が、その場にいるわたしたち宣教師を常に優先してくれていることがよく分かりました。」

事実上、多くの人にとってメールのやり取りは娯楽の一つとなっていますが、ある帰還宣教師の姉妹は「自分にとって最高の娯楽がメールだとすれば、それはとても残念なことです」と言います。いつか自分の「古き良き時代」にはどんなことをして楽しんだかを子供に話す機会が来たら何と言うのでしょうか。娯楽はほとんどビデオとテレビゲームと携帯メールだけだったと認めることになってほんとうにいいのでしょうか。彼女はこう提案します。「工夫を凝らしたデートを楽しむ、ゲームをする、みんなでくつろぎながら、おもしろい話しておなかが痛くなるまで笑う、といったことをしてみてもどうでしょうか。」

### ラッセルの経験

伝道から帰還したラッセルは、携帯電話を持てることがうれしくてたまりませんでした。伝道前にも持っていました、ゲーム、カメラ、メールの機能は付いていませんでした。帰還して間もないある週末、近所で行われるガレージセールの手伝いを頼まれました。芝生の上に様々な品物が広げられ、人々がそれらをゆっくりと見て回る間、ラッセルは新しい携帯電話をいじり、友人にメールを打ち始めました。伝道中のことが懐かしくてたまらないという内容です。ふと気がつくと、一人の女性が少し困ったような面持ちで品物を見ていました。ラッセルは携帯電話をしまい、話しかけました。すると、彼女は引っ越してきたばかりで、スペイン語は話すけれども、英語はあまり話せないことが分かりました。スペインで伝道したラッセルがスペイン語で話すと彼女は喜びました。それからラッセルは彼女の品物選びを手伝い、さらに宣教師を紹介するため名前と住所を覚えてもらうことができました。

ラッセルはこう語っています。「わたしは友人に宣教師時代を懐かしむメールを打っている真っ最中でした。そのために伝道の機会を危うく逃すところだったのです。携帯電話をしまうことにより、宣教師を紹介するための連絡先を覚えてもらうことができました。新しい携帯電話を手にしてうれしかったし、友人とメールのやり取りも楽しいことでした。でも、宣教師にだれかを紹介できることほど幸せなことはありません。」

携帯電話でメールをしてもよい時間と場所はあるのでしょうか。もちろんあります。ただし、メールに振り回されないようにすることが大切です。■



## 有効に 使いましょう

**携**帯メールは良い目的のために用いることもできます。ユタ州ソルトレーク・シティにあるスカイライン高校でセミナーに出席する3人の生徒が、自分や周りの人々が携帯メールをどのように有効活用しているか紹介してくれました。

- 人に親切にしたミッチは、感謝のメールをもらってうれしくなりました。携帯メールなら簡潔で明るい内容のメッセージを手早く送れるうえ、もらった相手は気持ちよく一日を送ることができます。

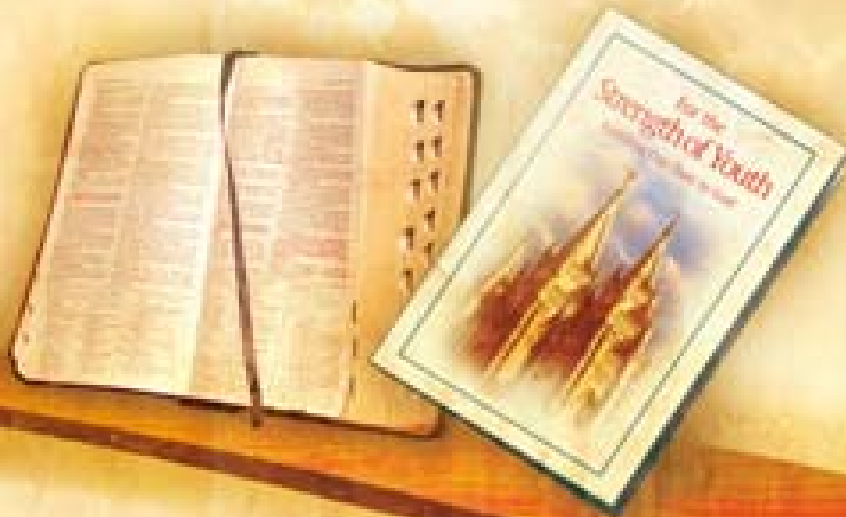
- マアリー・マーサの日曜学校の先生はクラスの生徒にメールを送り、次に行われる教会の活動に忘れずに参加するよう呼びかけました。

- ブリッジャーは友人にメールを送り、セミナーに来られるかどうか尋ねました。メールを使えば押し付けがましくなくセミナーやミュージックの活動に誘うことができます。また、活動に来られなかった人を気遣ったり、次回は来られるよう誘ったりすることもできます。

- ミッチの友人は携帯電話に聖文をダウンロードしています。メールで自分の好きな聖句を送ることで、もらった人の一日を変えたり、心を動かしたりすることもできます。

- ブリッジャーはメールで両親に「元気？」などと尋ねるのが好きです。このような使い方をすれば、自分を孤立させるのではなく、逆に両親との関係を深めることもできるでしょう。

携帯メールを賢く利用できるかどうかは皆さん次第です。便利な道具として用いるのはよいですが、それが顔を合わせたコミュニケーションに取って代わるようなことがあってはなりません。



メディアの暴力シーンを見ることは、わたしにどれほどの影響を与えるのでしょうか。その答えは驚くべきものでした。

## 匿名

「ね え、お父さん」と、わたしは熱心に頼みました。「この映画が大人向けに指定されているのは、暴力シーンがあるからだけなんだよ。暴力と言ってもただの芝居なんだから、悪い影響はないよ。」

16歳のいとことわたしは普段、大人向けの映画を見たいとねだることはありませんでした。わたしたちはセミナーや祭司定員会に活発な良い子供でした。しかし二人とも、この映画がいかによばらしくて、多くの賞を獲得するだろうということを耳にしていたのです。しかも、性的描写、中傷、裸の映像もなく、不敬な言葉もほとんどないと聞いていました。この映画のどこが悪いと言うのでしょうか。

わたしたちがその映画を見ることに反対の父は、ついには戦術を変えてこう言いました。「いいだろう。おまえたちは何が正しくて、何が間違っているかを知っている。自分で正しいと感じることをしなさい。」

教会指導者は不適切な映画を見ないようにと教えています。また我が家ではR指定の映画は見ないというのがルールでした。(合衆国ではR指定の場合、17歳以下の人は大人と一緒になければ見ることはできません。) 今思えば、わ

たしはいとこと映画を見に行ってもいいと父に言わせたかったのでしょうか。そうすれば、自分の望みどおりのことができるうえに罪悪感を覚えなくて済むからです。ところが逆に、父は決断をすべてわたしに任せました。

父はだめとは言いませんでした。それに、暴力シーンがほんの少しあるだけのことです。

いとこと映画を見た後、ひどい気分になりました。嫌な気持ちがあったのはこの映画がR指定だったからだと思い、もう二度とR指定の映画は見ないと決意しました。しかしその後、それほど暴力的でない映画を見た後でも(10代の若者も鑑賞できる、もっと緩い指定でしたが)、



# ほんの少しの 暴力シーン？

やはりあの嫌な気持ち  
がすることに気づきました。

どうしてこんな気持ちになる  
のでしょうか。緩い指定の映画を選ん  
だのだし、悪いことはしていないはずで  
す。映画の指定だけが原因ではなく、暴力  
シーンそのものが問題だったのかと思いまし  
た。しかし、暴力シーンを見ることは、わたしに  
それほどの影響を与えるものなのでしょうか。

携帯用の『若人の強さのために』を読んだと  
き、とても大切な点をこれまで見落としていた  
ことに驚きました。「娯楽とメディア」の項目に  
は次のように書いてあります。「いかなる形で  
あれ、下品で、暴力的な娯楽、また、不道徳で、  
わいせつな娯楽に心や目を向けたり、加わったり  
しないでください。」



## 御霊のそばにとどまる

「標準は明らかです。もし何かを思ったり、見たり、聞いたり、行ったりすることが自分を聖霊から遠ざけるならば、それを思ったり、見たり、聞いたり、行ったりするのをやめるべきです。もし例えば娯楽を目的としたものがわたしたちを聖なる御霊から遠ざけるならば、そのような娯楽は確かにわたしたちにふさわしくありません。」

十二使徒定員会  
デビッド・A・ベドナー長老  
「いつも主の御霊を  
受けられるように」  
「リアホナ」  
2006年5月号, 30

それでもまだ納得できなかったわたしは、自分自身にこう言いました。「暴力シーンに影響される人もいるかもしれない。でも、それは演技だと自分には分かっている。かなり生々しい暴力を見せる映画があるのも確かだけど、そういう場面は作品全体の中では少ししかないし、悪い影響もない。きっとないはずだ。」しかし、わたしは急に自信がなくなりました。

そして『若人の強さのために』を読み進めると、胸を刺すような部分にぶつかりました。暴力を避けるようにとの勧告の後、「神の標準を守る決意(をする)」ということが書いてあったのです。

わたしが間違っていたのは明白でした。確かに、下品で、不道徳で、わいせつなものに近づかないことで正義を選んでいると自分を正当化することはできました。しかし神の標準のほぼ全部を守れば十分だったのでしょうか。すべての標準を守るつもりがないのに、わたしはほんとうに決意ができていたのでしょうか。

映画の年齢指定や暴力シーンがどのくらい出てくるかは問題ではありませんでした。わず

かな暴力シーンでも、御霊を遠ざけるには十分だったのです。そしてそれが映画について言えるならば、同じ原則がほかの物事にも当てはまらないでしょうか。神を冒瀆(ほうとく)するような言葉でなくても御霊を遠ざける言葉遣いや、歌詞がそれほど悪くなくても御霊を受けるにふさわしくない音楽があるかもしれません。

見るもの、読むもの、言うこと、聞くことについて、これまで以上に気をつけるように決意すると、数日のうちに自分が大きく変わるのが分かりました。自分が御霊の影響にこれほど鈍感になっていたとは知りませんでした。

暴力シーンをなるべく見ないようにすると、いらいらを抑えやすくなることに気づきました。兄や弟ともそれほどけんかをしなくなりました。汚い言葉遣いをしなくなると、きれいな言葉遣いが自分を大きく変えてくれることが分かりました。何よりも、御霊をより強く感じられるようになりました。

この経験から、わたしは「ほんの少しの暴力シーン」でも、見るならば御霊を遠ざけてしまうということを学びました。■

## メディアの中の暴力シーン

暴力的な映画やテレビ番組は、どの区分に指定されているかにかかわらず皆さんに影響を与える可能性があります。30年以上の間、教会指導者は暴力シーンを見ることに対して警告を発してきました。2000年には、合衆国の医学会で指導的な立場にある人たちが次のようにはっきりと宣言しています。

「1,000を優に超える研究が……メディアの中の暴力シーンと一部の子供の攻撃的な行動の間には因果関係があると力説しています。公衆衛生の研究者たちが30年以上に及ぶ研究に基づいて出した結論は、娯楽として暴力シーンを見るのがより攻撃的な態度、考え方、行動につながるということです。」(“Joint Statement on the Impact of Entertainment Violence on Children” (2000年7月26日), <http://www.aap.org/advocacy/releases/jstmtevc.htm>)



# 神殿での礼拝に備え、 参加することによって、 神の御手に使われる者となる



以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を伝え、あなたが教える人々にも同様に分かち合うように勤めてください。

## 神殿での礼拝に備えることは、神の御手に使われる者となるためにどのように役立つでしょうか。

**教義と聖約95：8**——「わたしは、一つの家を建てるようにという戒めをあなたがたに与えた。わたしはこの家の中で、わたしが選んだ者たちに高い所から力を授けようと考えている。」

**十二使徒定員会 ラッセル・M・ネルソン長老**——「神聖な聖約というものは、わたしたちの心の中から、害を及ぼすような不純物をろ過する働きをしています。自らの選びによって神の御心に添わないものをすべて拒むとき、大切な価値あるものを決して失うことなく、永遠の命という栄光にあずかることができます。聖約はわたしたちを押さえつけるものではありません。むしろ、わたしたち自身の持つ能力や物の見方の限界を超えて、はるかに高めてくれるものなのです。……神殿の儀式は、個人の進歩に関係し、同時にまた、亡くなった先祖たちの贖いにも関係します。……死者のために行う奉仕の業は、神殿での礼拝に繰り返し参加する機会を生み出します。」

……霊的なものの崩壊の進むこの世界にあって、神殿の祝福を受けるために備える人々は、何か違いを生み出すことができるのでしょうか。もちろんです。そのような聖徒たちは、『主の聖約の民』であって、『義と神の力とをもって、大いなる栄光のうちに武装している人々だからです〔1ニーファイ14：14〕。そうした人々の模範には、全人類の生活を高めることができる力があるのです。』（「神殿の祝福を受けるための個人の備え」『リアホナ』2001年7月号、39参照）

## 神殿に参入して礼拝することは、わたしが神の御手に使われる者となるためにどのように役立つでしょうか。

**中央若い女性第二顧問 イレイン・S・ダルトン**——「神殿に参入し、『父が持っておられるすべて』を受けるには、ふさわしさがが必要です〔教義と聖約84：38〕。主は言われました。『絶えず徳であなただけの思いを飾るようにしなさい。そうするときに、神の前において

あなたの自信は増〔す〕であろう。』（教義と聖約121：45）徳で思いを飾るなら、主御自身が来られる神殿に、自分のふさわしさを自覚しながら、自信をもって参入することができます。ふさわしい人は、神殿に参入するだけでなく、心の中に神殿を持つことができます。主が与えられた救いと幸福の約束はわたしたちのものとなり、現世におけるわたしたちの使命は主のものとなるのです。』（「永遠に目を向ける!」『リアホナ』2006年11月号、32参照）

**十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老**——「神殿で自分自身のエンダウメントを受け、亡き親族のための神聖な儀式を受けに、しばしば繰り返し参入することによって、信仰を増し加え、希望を強め、慈愛を深めることができます。わたしたちは、主がその子供たちのために定められた計画を理解し、各人が天の御父の子供としてその内に秘めている神聖な可能性を認識し、交わした聖約を最後まで忠実に守り通すという信仰と希望をもって自分自身のエンダウメントを受けます。」

死者のために神殿の儀式を受けるのは、絶対に欠かすことのできない祝福を、現世でそれにあずかる機会がなかった先人たちに提供するという慈愛の一つの現れです。わたしたちは、彼らが自分自身ではできないことを、彼らのために行う特権を与えられているのです。』（「神聖な特質を養う」『リアホナ』1999年1月号、29参照）■





# 人生の波を乗り越えて 対等なパートナーになる

七十人

ブルース・C・ヘーフェン長老  
マリー・K・ヘーフェン

**夫**が玄関を開ける音がします。仕事から家に戻って来ました。台所ではいつもと同じ光景が繰り広げられています。赤ん坊が泣いています。3歳の子が牛乳を、コップにではなくテーブルいっぱい注いだところです。7歳の子は家に帰ってきた父親の注意を引こうとしています。夕食の支度はできていません。

仕事の締め切りが明日に迫っている夫は、渋滞に遭っていらいらしながら帰宅しました。夜には教会の集会も控えているため、ほっと一息つけるような優しい態度で妻が迎えてくれることを期待しています。

玄関の音で夫の帰宅を知った妻は、これでやっとな息つけると喜びます。でも、迎りを見回してがっかりした夫の表情を見て取ると、むきになって弁解し始めます。「あのねえ、わたしだって一日中働いているのよ。この子たちの世話で、息つく間もないの。少しは休ませてちょうだい。お願いだから、このインスタントのマカロニを作って、子供たちの世話を手伝ってくれないか？」

こんな妻の頼みに、期待がいらだちに変った夫は、まさに言い返そうとしています。

忙しい一日の終わりにこんな局面を迎えた二人には、選択肢が幾つかあります。聖約を交わしたときに誓った夫婦像に



神殿結婚の聖約が魔法のように夫婦を対等にしてくれるわけではありません。聖約を交わし、その原則を実践するとき、夫婦はともに学び成長しようという決意を強めることができます。

近づけるようこの機会を活用するでしょうか。それとも、生まれ育った家庭や文化では当たり前だったパターンどおりに行動してしまうのでしょうか。長い時間をかけて身に付いた態度や考え方は、二人が反発せずに協力し合うことを、時として阻んでしまうことがあります。

この夫婦のうち、夫は、亭主関白の父親と、伴侶に従順な母親のもとで育ったとしましょう。ピカピカに磨かれた玄関を開け、「ただいま!」と言う夫の大きな声が聞こえてきます。きれいに髪を整え、化粧をして、アイロンのかかったエプロンを着けた妻が穏やかにこたえます。「夕食の支度ができていますよ、あなた。ネクタイを外して

おかげになって。」家中がきちんと片付いています。

夫の両親は、合衆国のある教会が最近信者たちに書き送ったように、「**恭しく夫に仕える**」ことが妻の第一の義務だと信じているとしましょう。そして、夫の義務は指示を与えること、つまり指導的な立場で仕事を割り当て、成果を期待することだと信じていると仮定します。

他方、妻はウーマンリブを支持する両親のもとで育ちます。母親は、女性が自分を否定するような厳格な自己犠牲を強いられることのない時代に生きられることに感謝しています。

女性の自由が確立されたこの新しい時代にあって、賢い妻はまず自分と自分の優先順位を大切にする必要があります、それゆえ、夫や子供のために費やす時間と労力は制限すべきだというのが恐らくこの母親の考え方なのでしょう。そして父親も同じように思っています。

### 互いに助け合う夫婦となる

「家族——世界への宣言」は、このような両極端の態度を正し、今紹介した夫婦が育った家庭のどちらとも明確に異なる夫婦の概念を教えています。宣言は、父親が「管理」する立場にあって、「生活必需品を提供し、家族を守る」責任を持つと述べています。一方、母親には「子供を養育するという主要な責任」があるとしています。父親と母親は「対等のパートナー」としてこうした義務を果たすのを「互いに助け合う」のです。<sup>1</sup>

先ほどの若い夫の両親は、女性は完全に夫に依存しているという古い考え方を当たり前だと思っています。一方、妻の両親は、女性は夫から独立しているという新しい考え方が正しいと思っています。しかし回復された福音は、夫と妻は互いに助け合うべきだという永遠の概念を教えています。二人は対等であり、パートナーなのです。

妻は夫に依存するべきであるという、キリスト教史における間違っただけの考えは、アダムとエバの墮落は悲しむべき過ちであって、それはそもそもエバの罪によるものだという誤った前提から生じました。この前提のため、伝統的に女性が男性に従属することは、エバの罪に対する正当な罰だと考えられたのです。<sup>2</sup>

幸いなことに、福音の回復によって、エバの、そしてアダムの選択は、神の子供たちが永遠に進歩するために必要不可

欠だったことが明らかになりました。わたしたちは二人の行為を非難するのではなく、むしろ称賛します。そして、アダムとエバは対等のパートナーであったと理解しています。

夫婦は互いに独立した存在であるという女性解放論者の考えも間違っています。この考え方は概して、男性と女性には生まれながらの違いは存在しない、たとえあるとしても、性別によって異なる役割を定める権利はだれにもないと主張しています。

ある意味では、従属的であった妻の行きすぎた自己犠牲が男性の支配を許し、助長さえてきたと言えます。これに反発した女性解放運動の急進派は、互いに助け合うという可能性を通り過ぎて、独立という対極に走ってしまいました。この時流と感情があいまって、過剰な自己犠牲から過剰な自己中心主義に走る女性も出てきました。そんな女性たちは、自発的な犠牲からしか得られない個人の成長の機会を失うことになり

ました。この自発的な犠牲こそ、手の届くところにいるすべての人を養うという女性の能力を生かすものなのです(ヨハネ17:19参照)。

互いに助け合う対等のパートナーという概念は、回復された福音の教義に深く根付いています。エバはアダムの「助け手」でした(創世2:18)。「助け手」[訳注——英語では“help meet”]の元になったヘブライ語の *meet* に当たる言葉は、エバはアダムにふさわしい、または対等であるという意味を持っています。エバはアダムの召し使いや従属者だったわけではありません。また、“help meet”の *help* に相当するヘブライ語は *ezer* という言葉です。この言葉には、エバが女性に与えられた賜物、すなわち女性特有の霊的な直感を結婚生活にもたらし、天の力を引き出したという意味があります。<sup>3</sup>



十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー会長は、男性と女性は生まれながらに異なっており、人間的な資質の多くを共有している一方、「完成と昇栄のために必要な徳や属性は、元来女性に〔より多く〕与えられ」と語っています。<sup>4</sup>

創世3：16には、アダムはエバを「治める」であろうと書かれていますが、これはアダムが独裁者であるという意味ではありません。治める者とは規範を定める者のことです。だとすると、アダムは、人が彼を見て自らの行動の是非を計れるように生きたということになります。治めるということは、力をもって治める特権を得るというより、むしろ教えを説く者として言行を一致させる義務を負うという意味なのです。また、「治める」の英語“rule over”のoverに当たるヘブライ語のbetには、他人を治めるのではなく、共に治めるという意味があります。もし男性が「いかなる程度の不義によってでも、……支配」しようとするなら、神はその人の権能を取り上げてしまわれます(教義と聖約121：37、強調付加)。

恐らく、間違った教えが聖文の本来の意味をゆがめてしまったからという理由で、スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)は「治める」より「管理する」という言葉を好んで使いました。大管長は次のように言っています。「教会の幹部が、妻は夫に従って悪を行わなければならないと助言したことは一度もありません。妻は、夫が世の救い主に従って従順であるときに〔限り〕、夫に従わなければならないのです。しかし、〔夫がキリストに従っているかどうかの〕判断に当たっては、妻は常に公正でなくてはなりません。」<sup>5</sup>

このように、キンボール大管長は、結婚は「完全な協力関係」であると理解していました。また、このようにも言っています。「わたしたちは末日聖徒の女性に……沈黙の協力者、力を出し惜しむ協力者にはなってほしくないのです。どうぞ、献身的で、完全な協力者となってください。」<sup>6</sup>

対等であるからといって、夫婦が同じ役割を果たす必要はありません。女性には生まれつきの霊的な本能が備わっていて、徳の羅針盤のように、常に霊的な意味で北を指し示してくれます。ただし、それは羅針盤の調子がよい場合です。男性の管理の賜物は神権です。ただし、それは義の原則に

**創**世3：16には、  
アダムは  
エバを  
「治める」であろう  
と書かれていますが、  
これはアダムが  
独裁者であるという  
意味ではありません。  
アダムは、  
人が彼を見て  
自らの行動の是非を  
計れるように生きた  
ということです。



従った生活をしている場合に用いることができます。賢明な夫婦は互いの助言を尊重し合うでしょう。夫は妻の内なる霊の羅針盤が示す方向に注意を払い、妻は夫の義にかなった助言に耳を傾けるのです。

また、対等な夫婦が営む結婚生活では、男女の違いにかかわらず両者が夫婦関係に霊的な成熟をもたらします。両者とも、良心によって正しい判断をし、聖霊の導きを受けることができます。互いに家庭生活が最も大切な仕事であると考えます。またそれぞれが、十分に成熟したイエス・キリストの弟子になるよう、つまり完全な霊性を身に付けるよう努めるのです。

### 対等な夫婦が営む結婚生活

十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926 - 2004年)は、教会の男性が教義を重んじ、女性実践を重んじる傾向があまりに長く続いてきたと言っています。<sup>7</sup> 対等な夫婦であるためには、男女がその両面を重んじる必要があります。

マックスウェル長老は1996年に自分が白血病であると知り、その診断に落胆しました。しかし、長年にわたって主の御心に「喜んで従〔う〕」(モーサヤ3：19)ように努めてきた長老は、もし死に直面する時が来たのであれば、苦い杯を飲まずに身を引くようなことはしたくないと思いました。

しかし、妻のコリーンは、長老のあきらめがよすぎると思いました。そして愛を込めて率直に、夫に次のことを話しました。つまり、キリスト御自身でさえも、まず「もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」と懇願し、そのうえで初めて、「しかし、わたしの思いのままではなく、みこころのままになさって下さい」と御自身を御父にゆだねられたということ(マタイ26：39)。マックスウェル長老は、妻が持っていた教義に対する深い洞察をくみ取り、同意しました。こうして二人は長老の命が長らえるよう一緒に祈りました。二人の決心に突き動かされた医師は新しい治療法を見つけ、長老の寿命は数年延びたのです。マックスウェル長老は、妻も教義を重んじる人であったことに感謝しました。<sup>8</sup>

対等な夫婦が営む結婚生活においては、「愛は所有するも

のではなく、分かち合うものであって、……わたしたち人間が協力して作り出すべきものの一つです。』<sup>9</sup> 苦楽を共にする夫婦は一体となることにより、「永遠の主権」という、一人だけではなし得ない結果を生み出します。その主権は、「強いられることなく、とこしえにいつまでも」霊的な命となって二人に流れ、その子孫に受け継がれます(教義と聖約121:46)。

家族という小さな王国において、夫婦は相手が持っていないものを惜しみなく与えます。それがなくてはどちらも完全になれず、神のもとに戻ることができません。夫婦は、一人がソロを歌いもう一人が伴奏をするではありません。また、二人が別々にソロを歌うということもありません。互いに助け合って二重唱をするようなものです。調和して歌えば、ソロとはまた別の美しさを持った音を出すことができます。

相手が必要としているものを惜しみなく与え合い、お互いを補い合うのが結婚生活です。パウロは次のように書き残しています。

「それは、ほかの人々に樂をさせて、あなたがたに苦勞をさせようとするのではなく、持ち物を等しくするためである。

すなわち、……あなたがたの余裕があの人たちの欠乏を補い、後には、彼らの余裕がああなたがたの欠乏を補い、こうして等しくなるようにするのである。」(2コリント8:13-14)

神殿結婚の聖約が魔法のように夫婦を対等にしてくれるわけではありません。聖約を交わし、その原則を実践するとき、夫婦はともに学び成長しようという決意を強めることができます。

台所で難しい選択を迫られたあの夫婦も、永遠の家族という約束を実現させたいと決意しています。しかし、対等な夫婦は天国で実現するものではありません。対等な夫婦は地上で実現するのです。一つ一つの選びや会話、決断を積み重ねて作られるものなのです。対等な関係を築くのは容易ではありません。あの夫婦が台所で直面したような場面はこれから何度もやって来ますが、どちらが相手を助けるのかといった意見の違いを忍耐強く克服しながら夫婦は対等な関係を築いていかなければなりません。

テーブルから牛乳が滴り落ちる台所で、妻は夕食の支度に追われ、夫は締め切りと集会の時間に追われています。二

**賢** 明な夫婦は  
互いの  
助言を  
尊重し合うでしょう。  
夫は妻の  
内なる霊の  
羅針盤が示す方向に  
注意を払い、  
妻は夫の  
義にかんじた助言に  
耳を傾けるのです。



人とも疲れ切った表情をしています。聖約を結び、対等な関係を築こうとする夫婦なら、このような状況にどう対処するでしょうか。二人が何を行えば、対等な夫婦関係を実現させることができるのでしょうか。

若い奥さん、あなたの目には、あなたのために生活の糧を得ようと一日中働いてきた夫の姿が見えていますか。若いご主人、あなたの目には、その糧を有効に使うために一日中働き続けた妻の姿が見えていますか。二人とも、日常の忙しさのあまり、結婚した相手の持つ計り知れない価値を忘れてはいないでしょうか。

### 愛の力で人生の波を乗り越える

生涯にわたりともに福音を実践し、忍耐を続けた夫婦は、この人生の最後をどのように送るのでしょうか。ジョン・クラークと妻テリッサがこの世の歩みをどのように締めくくったのかを見てみましょう。1921年、ユタ州マンタイのジョン・ハスラム・クラークは、人生で最後となった日記をつけました。

「今日集まってくれた家族も皆帰って行った。走り回る足音、笑い声、おしゃべりはもう聞こえない。また二人だけだ。運命によって一つとなったおまえとわたしの二人だけ。木陰でおまえに出会ったあの6月は、ずっと昔、60年も前のことになる。わたしのキスがおまえの初めてのキスだったね。おまえは恥づかしがり屋で、

引込み思案な女の子だった。わたしにとって、おまえ以上の女性はどこにもいない。わたしは、どんなに若くてきれいな女性よりも、白髪のおまえにそ

ばにいてほしいと願う。おまえのいるところがわたしの家だ。おまえがいなければホームシックにかかってしまう。この世に愛ほどすばらしいものはないが、おまえを見ていると、その愛よりもっと偉大なものがあることに気づく。それは誠実さだ。わたしがどこかで恥をかいてその場を追い出されても、おまえはついて来てくれるだろう。高熱で倒れるなら、おまえのひんやりした手が苦しみを和らげてくれるだろう。おまえの手を握りながらこの世を去り、救われた人々に加わられたらと願う。年月がたつにつれて、8歳年上のわたしは別れの時が近づいているのを感じる。どちらかが後に残される



なんて考えられないと、よく二人で話したね。56年も一緒に生きてきて、これから一人きりになるなんて考えたくもないが、年齢的にも先に行くのは自分だと思う。後に残らなくてほっとしているわたしは少し自分勝手かもしれない。」

続いて、同じページに別の筆跡の書き込みがあります。ジョンの日記を締めくくるテリッサの言葉です。

「夫が最後の日記をこのページに書き込んでから約2年半。それからの出来事は、夫と生涯を共にしたわたしにはあまりにも悲しくつらいものだった。わたしの言葉でこの日記を終わらせなければと何度も思いながら、今日まで書くことができなかつた。夫を失った悲しみと寂しさが絶えることはない。それはわたしがこの世を去るまで続くことだろう。……時間がこの悲しみを和らげてくれることなどあるのだろうか。家を出る度、あの人がわたしの帰りを待っている、わたしを呼んでいると、もう感じなくなる日が来るのだろうか。心が安らぐのはこの家にいるときだけ。夫が見守ってくれて、いつも一緒にいると感じられるこの家だけなのだ。

1923年3月11日、ジョン・ハスラム・クラークは、わずか1週間の病の後に他界した。亡くなる数時間前に意識を失うまで、いつものように話し、元気に振る舞っていたため、死が迫っているとはだれも思わなかつた。ああ、わたしたちが皆、夫のように汚れなく清らかに、創り主の前に出る備えができますように。」<sup>10</sup>

ジョンとテリッサがどんな人生の荒波を乗り越えてきたかを、具体的に知ることはできません。しかし、56年にわたる日々の会話と触れ合いの積み重ねが二人の人格を磨き、愛

を形作ったことは間違いありません。

最初に登場したあの若い夫婦も、生涯の終わりにこのような愛をもって理解し合えるようになって分かっていたら、どんな犠牲をもいとわないことでしょう。伴侶の言葉にもっと耳を傾け、さらに良い選択をして、あきらめることなく日々の困難を乗り越えていくことでしょう。忍耐を積み重ねることによって、「行いは愛の実践である」<sup>11</sup> ということを学ぶでしょう。また晩年においては、結婚生活のおかげで二人がさらに優れたイエス・キリストの弟子になれたこと、またさらに一歩、キリストに近づいたことを実感するでしょう。そして、死というこの世における最後の荒波を二人が乗り越えるとき、夫婦がどのくらい主と一つとなることができたかは、二人がどのくらい一つとなれたかによって決まるということを理解するのです。■



**日々の会話と触れ合いの積み重ねが  
ジョンとテリッサの人格を磨き、愛を形作りました。**

#### 注

1. 『リアホナ』2004年10月号, 49, 強調付加
2. イレイン・ベイゲルズ, *Adam, Eve, and the Serpent* (1988年), 68参照
3. ブリガム・ヤング大学教授ドナルド・W・パリーによるヘブライ語翻訳
4. 「この世から永遠にわたって」『聖徒の道』1994年1月号, 26参照
5. “The Blessings and Responsibilities of Womanhood,” *Ensign*, 1976年3月号, 72
6. 「女性の特権と責任」『聖徒の道』1979年2月号, 152-153
7. *Wherefore, Ye Must Press Forward* (1977年), 127参照
8. ブルース・C・ヘーフェン, *A Disciple's Life: The Biography of Neal A. Maxwell* (2002年), 14-15, 555参照
9. マデレイン・レングル, *The Irrational Season* (1976年), 98
10. ブルース・C・ヘーフェン, *Covenant Hearts: Marriage and the Joy of Human Love* (2005年), 265-266
11. カーリル・ギブラン, *The Prophet* (1973年), 28

# 質疑応答

「どうすれば安息日あんそくにち きよを聖く保てるのでしょうか。  
してはならないことばかりに気持ちが向いてしまいます。  
楽しいことが何もできない日ではなく、待ち望むような日するには  
どうしたらよいのでしょうか。」

## 『リアホナ』からの提案

**主**は安息日を休息し礼拝する日として聖別されました。安息日はほかの日とは異なるため、わたしたちは週日に行くことを安息日にはしないようにしています。しかし、これはできることがあまりないという意味ではありません。安息日に主を第一に置くことを学ぶにつれて、「安息日を喜びの日と呼ぶ」ことができるようになるでしょう(イザヤ58:13)。安息日を聖く過ごし、同時にその日が待ち遠しくなる方法をいくつか紹介します。

**できることに注目する。**イエスの時代には安息日に何ができて何ができないかという決まり事が数多くありました。安息日に病人をお癒しになったとき、人々はイエスを批判すられました。イエスは模範を通して、安息日に善いことを行う方が、行ってはならないことについて考えるよりも大切であると示されました。

**前もって計画する。**まず、『成長するわたし』や『神への務め』の目標に取り組むなど、安息日に自分がしてみたいことを考え、達成する計画を立てましょう。次に、安息日に霊的なこと

皆さんのできる  
善いことに  
意識を向けるように  
してください。

前もって計画すれば、  
安息日を  
心待ちにすることが  
できるようになるでしょう。

日曜日には  
家族と楽しい時間を  
過ごしましょう。

安息日は  
わたしたちのために  
与えられました。  
安息日を  
神聖に保つことにより  
祝福を受けるでしょう。

に集中できるよう、宿題、雑用、そのほかしなければならぬことはその週のうちに済ませましょう。前もって計画することにより、安息日を待ち遠しく思えるようになります。

**家族と時間を過ごす。**ゴードン・B・ヒンクレー大管長は安息日を聖く保つ大切な方法について、次のように語っています。「家にいて家族を集めてください。福音を教え、一緒に安息日を楽しく過ごし、集会に参加してください。」「<sup>1</sup>家族とともに時間を過ごすことによって、安息日に喜びを感じることもできるよう。

**助けを求めて祈る。**安息日に何をしたらよいか分からなかったり、安息日を心待ちにすることができず感じるなら、祈ってください。主は安息日を聖く保つようと命じられましたが、戒めを守る方法を備えないままわたしたちに何かをお命じになることはありません(1ニエファイ3:7参照)。天の御父に祈るとき、御父は安息日に何をすべきかが分かるように、また皆さんの気持ちが変わるように助けてくださるでしょう。



## 読者からの提案

安息日はわたしたちのために作られました(マルコ2:27参照)。安息日を聖く保てるよう最善を尽くすとき、皆さんは祝福を受け、日曜日を毎週待ち遠しく感じるようになるでしょう。

### 注

1. "Excerpts from Recent Addresses of President Gordon B. Hinckley," *Ensign*, 1996年8月号, 61



安息日はわたしにとって特別な日です。なぜなら、この日は救い主や福音について知識を深め、天の御父にさらに近づくための時だ

からです。この世の騒がしさにとらわれることがないので、御父の御霊による静かな気持ちと平安をより豊かに感じることができます。断食、祈り、聖文学習などを通して一心に主を尋ね求めるなら、主を見いだし、御霊を通して祝福が得られるでしょう(エレミヤ29:13参照)。御霊はわたしたちがこの世の煩いを離れ、

より良い人になれるように助けてくれます(イザヤ58:13-14参照)。

アメリカ合衆国、アイダホ州、モライア・M、15歳



気持ちはよく分かります。でもわたしは、安息日がどれほど素晴らしいものか次第に実感できるようになりました。天の御父に祈り、力を願い求めるなら、安息日にはならないことが気にならなくなります。わたしたちを強めてくださるよう天の御父

に祈ることにより、安息日は楽しい日になります。安息日には休息を取り、祈り、奉仕し、祝福を受け、霊を養い、霊的にとても強くなることができます。コロンビア、ナリーニョ、リチャード・R、16歳



安息日を週日とは異なる日にしましょう。ほんとは友達と過ごす時間にしたいとか、この日があれば宿題ができると思うかもしれませんが、安息日を守ることもそういったこの世的なことを優先させるなら、それは永遠の祝福や喜びを逃すことになると思ってください。安息日を聖く保つことにより、霊的に満たされていると感じ、これからの1週間を迎える備えができるだけでなく、天の御父に敬虔さを示すことができます。日曜日が1週間のうちで最高の日だと心から言える日が来ることを強く証します。

アメリカ合衆国、メイン州、ソフィア・W、16歳



教会や神権の召しを果たしている、自分の思いを安息日にふさわしいものに保つことがたやすくなると感じます。祭司として義務を果たし、教師や執事が責任を果たせるように助けるとき、安息日にできないことよりも、この日に成し遂げたいと思うことに心が向いている自分に気づきます。

アメリカ合衆国、モンタナ州、アンドリュー・S、17歳

わたしはいつも安息日を楽しみにしています。この日には天の御父の大きな愛を感じます。安息日には人生のつらいことを全部忘れることができます。聖餐を受けるとき、イエス・キリストがわたしたちのために払ってくださった偉大な犠牲に心が向きます。わたしたちが再び天の御父とともに住めるよう、イエスが耐えられた恐ろしい苦痛を思い起こします。わたしの心は慈愛で満たされます。この気持ちを隣人、特に教会員ではない人たちと分かち合いたいです

ウクライナ、アンナ・R、20歳



「安息日は、価値ある、聖い事柄を行う聖日です。……この戒めを守る人は、ひざまずいて祈り、レッスンを準備し、福音を学び、瞑想にふけり、病気の人や悲嘆に暮れている人を見舞い、宣教師に手紙を書き、午後に少しの間休息し、健全な本を読み、出席するよう期待されているすべての集会に出席する日として、この日を過ごすでしょう。」

スペンサー・W・キンボール大管長  
(1895-1985年)  
「安息日—喜びの日」  
「聖徒の道」  
1978年7月号、4-5



安息日には様々なことをする機会があると考えてみてください。家族でできるいろいろな活動を思い浮かべてください。わたしの家族では、教会に行く、精神を高めるものを読む、

教会関連の映画を見る、ファイヤサイドに参加する、家族でゲームをするといったことを日曜日に行っています。日曜日は家族とより多くの時間を過ごし、天の御父に近づくための日です。

アメリカ合衆国、ワシントン州、ジャスティン・D、18歳

神聖に保つと決意してから、主の日は1週間のうちで最も好きな日となっています。安息日に主を礼拝し、敬虔でいたいという気持ちを持ち続けるために何ができるかを書き出しました。その中には早く起きる、聖文を読む、『成長するわたし』に取り組む、日記をつける、手紙を書くなどがあります。これに加えてほかにも霊的な活動をするときに、自分の内にすばらしい御霊と喜びを感じます。また気づいたのですが、こうしているとあまり霊的でない活動をする時間がなくなるのです。

ブラジル、リオ・グランデ・ド・スル、シルビア・M、18歳

本誌の答えは、問題解決の一助となるように意図されたものであり、教会の教義を公式に宣言するものではありません。

## 質問

「教会に来なくなってしまった友達が何人かいます。彼らが教会に戻って来るために、わたしは何をしてあげられるでしょうか。」

## あなたの意見を聞かせてください

氏名、生年月日、ワードおよびステーク(または支部および地方部)を明記のうえ、写真を添えて(写真掲載に対するご両親の承諾書とともに)、下記まで郵送か電子メールでお送りください。

あて先— Questions & Answers 9/07  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA  
電子メールアドレス—  
liahona@ldschurch.org

2007年9月15日必着で送付してください。■

# 希望を知りました

内戦の恐怖のさなか、  
わたしは1冊の本と一つの袋の中に  
希望を見つけました。

マリアマ・カロン

教会機関誌のライリー・M・ロリマーが  
マリアマ・カロンから聞いた話

**わ**たしは西アフリカの小さな国シエラレオネで10代を過ごしました。悲しい場所ですが、それがわたしの故郷です。そこで暮らしたほとんどの間、国は内戦によって分裂していました。戦いはあらゆるものに影響を与え、家族とわたしは反乱軍から常に逃げ回っていました。反乱軍が町を通るのはいつも恐ろしいことでした。夜、近づいて来る反乱軍のたいまつに気づいた人から警告を受けると、人々は皆、持てる物をつかんで茂みに逃げ込みました。

内戦が始まって約7年後、反乱軍がわたしたちの町にやって来ました。家族全員で逃げようと走ったのですが、わたしのほんの少し後ろにいた両親は撃たれて殺されてしまいました。悲しみのあまり胸が張り裂けそうでしたが、それでも逃げ続けなければなりませんでした。

アフリカの伝統衣装に身を包み、  
かけがえのない所持品の一つである  
衛生キットを手にするマリアマ・カロン。





**教**会はシエラレオネの教会員とほかの人たちに食糧と人道支援用品を送りました。わたしは毛布と衛生キットを受け取りました。それは計り知れないほど貴重なものとなりました。

より安全な場所に移ったわたしときょうだいは皆、短い間でしたが無事に過ごしました。しかし結局は反乱軍がやって来てその町も襲いました。このときわたしたちは逃げる余裕がありませんでした。兄は連れて行かれ、後に殺されました。姉とわたしはほかの女性たちと同じように外に並ばされました。反乱軍の兵士は並んでいた女性の手足を切り落としていきました。わたしたちは皆震え上がりました。皆泣きながら祈っていました。それまで神を信じたことがない人でさえも祈りました。そのときわたしは教会員ではありませんでしたが、神を信じ、その御心みこころが行われるよう祈り、神がわたしを助ける方法を見つけてくださるよう願いました。

列の中でわたしより何人か前にいた愛する姉は両足を切り落とされました。しかし反乱軍がわたしの前の女性のところまで来たとき、政府軍がやって来たため反乱軍は逃げて行きました。わたしは、前や後ろにいた人たちより自分が決して善い人間ではなかったことを十分に承知していますが、命を助けてくださった神に感謝し、わたしに与えられた神の計画を理解できるように祈りました。

わたしは友達と住むためほかの村に移り住みました。友達とその隣人に自分が経験したことを話すと、隣人の一人が言いました。「マリアマ、あなたのためにできることが一つだけあります。それはあなたを明日教会に招待することです。そこは安全で、希望を見いだすことができますよ。」わたしは行くことに決めました。以前から神を愛しており、人生に慰めを必要としていたからです。

末日聖徒の支部に初めて行った日のことは決して忘れません。わたしは希望を知りました。教会の人々が希望を抱いていることは見ればすぐに分かりました。彼らに引きつけられたわたしは、モルモン書をもらうとすぐに読み始めました。教会で、どうすれば家族が死後再び一緒になれるかについて聞いたこと、それからアルマ書第11章を読んだことを覚えています。復活のときに肉体がどのように完全な形となるかをアルマが教えている部分です。自分の家族について考えるとわたしは御霊みたまを強く感じました。教会が真実で、わたしたちは完全になり、永遠に一緒にいられると知ったのです。

その当時シエラレオネに宣教師はいませんでした。わたしは支部会長から福音を学び、間もなくバプテスマと確認を受けました。祝福され、わたしたちの町には、教会員とほかの人たちのために教会から食糧と人道支援用品が送られてきました。その食糧のおかげでわたしたちは生き延びました。米か豆の入った小さな袋一つでも皆とても感謝しました。わたしは毛布と、歯ブラシ、歯磨き、シャンプー、石け

ん、くし、小さなタオルの入った衛生キットをもらいました。

それから間もなくしてまた反乱軍の襲撃があり、住んでいた家は焼かれてしまいました。炎の中を逃げる時持ち出せたものは聖典と衛生キットの二つだけでした。その後しばらくは逃げながら生活しなければならず、わたしは周りの人を助けるために自分の衛生キットを使いました。歯磨きを皆に少しずつしぼり出し、川では石けんを慎重に人から人へと回して使いました。わたしたちにとって衛生キットはとても大切なものでした。毛布も計り知れないほど貴重でした。それは、一緒に埋める所持品も持たずに亡くなった老女を包んで埋葬するまで、長い間わたしたちを守ってくれました。

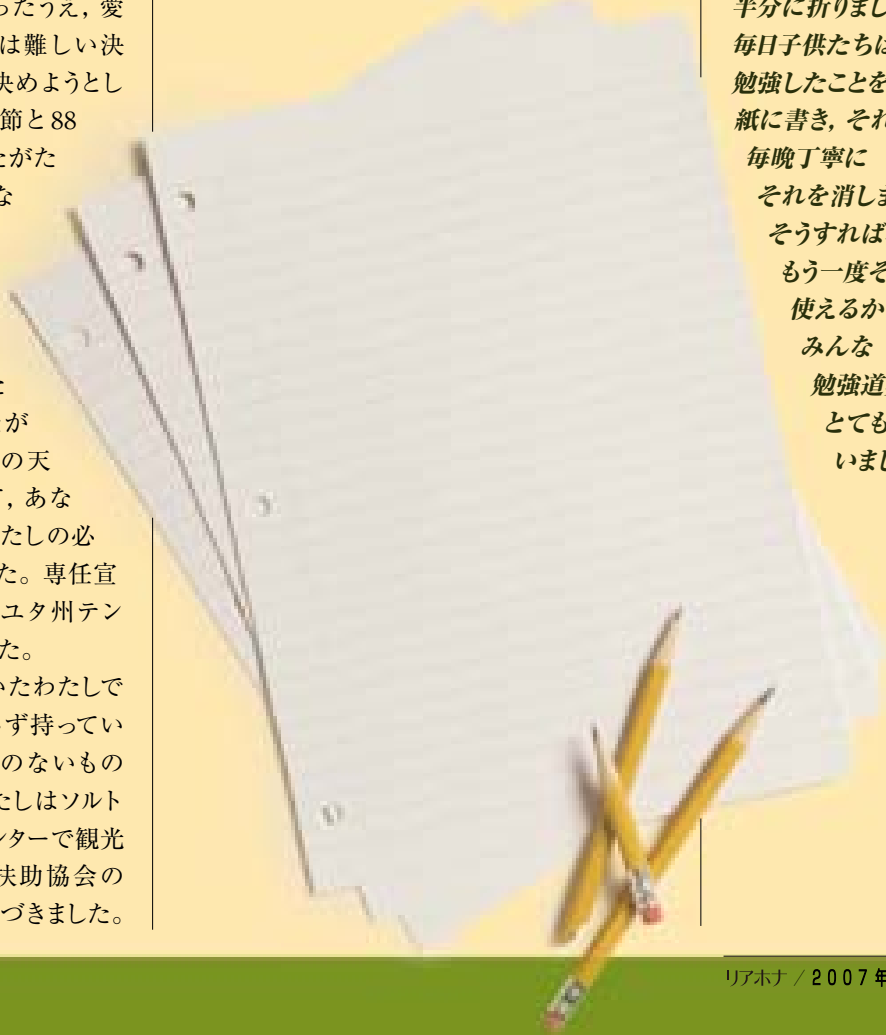
やがてわたしはバプテスマを受けた支部のある自分の町に帰りました。そして伝道に出る決意をしました。しかし無一文だったうえ、愛している人々を後に残していくのは難しい決断でした。ほんとうに出るべきか決めようとしているとき、教義と聖約第84章81節と88節を読みました。「それゆえ、あなたがたは明日のことを思い煩ってはならない。何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと思ひ煩ってはならない。……わたしはあなたがたに先立って行こう。わたしはあなたがたの右におり、また左にいる。わたしの御霊はあなたがたの心の中にある。また、わたしの天使たちはあなたがたの周囲にいて、あなたがたを支えるであろう。」主がわたしの必要を満たしてくださいと分かりました。専任宣教師の申請書を出したわたしは、ユタ州テンプスクウェア伝道部に召されました。

ほとんど何も持たずにユタに着いたわたしでしたが、衛生キットだけは肌身離さず持っていました。わたしにとってかけがいのないものだったからです。ある日、同僚とわたしはソルトレーク・シティーにある人道支援センターで観光客を案内していました。すると、扶助協会のマークが刺しゅうしてある毛布に気づきました。

かつてシエラレオネでわたしが持っていた毛布と同じものでした。周りを見回し、わたしのものと同じ衛生キットや見覚えのある豆と米の袋を見つけたわたしは泣きだしてしまいました。

「みんなここからのものだったのね！」そう思うと涙が頬を伝いました。人道支援センターに積まれてあるこれらの物資が、シエラレオネにいたときのわたしや友達にとってどれほど助けになったかを思い出したのです。わたしは主がわたしの命を守り、人生に福音をもたらし、伝道で奉仕することを許してくださったことに感謝しました。主の天使は確かにわたしの周囲にいて、わたしを支えてくれたのです。■

わたしが  
人道支援用品  
をもらったとき、  
わたしの義理の妹は  
スクールキットを受  
け取りました(訳注——  
スクールキットには鉛筆、  
消しゴム、はさみ、  
ノートが入っている)。  
学校で  
紙を持っていたのは  
彼女だけでした。  
彼女は友達に分けるため、  
丁寧にその紙を  
一枚ずつはがし、  
友達にあげるために  
3本の鉛筆を  
半分に折りました。  
毎日子供たちは  
勉強したことを  
紙に書き、それから  
毎晩丁寧に  
それを消しました。  
そうすれば次の日に  
もう一度その紙を  
使えるからです。  
みんな  
勉強道具に  
とても感謝して  
いました。



# 会員伝道を成功させるには

ワードと支部を中心として  
伝道活動が展開されるようになった今、  
会員たちはどうすれば優れた  
宣教師になることができるでしょうか。  
カナダのブリティッシュコロンビア州に  
住む末日聖徒は  
次のような方法を提案しています。

R・バル・ジョンソン

教会機関誌

**マ** 姉妹は恐らく世界一の宣教師でしょう。少なくともカナダ・バンクーバー伝道部のアンソニー・ミドルトン会長はそう評価しています。しかしこの意見に驚く人もいるかもしれません。なぜなら、レナ・マは専任宣教師ではありませんし、英語を主要な言語とするブリティッシュコロンビア州に住んでいながら、北京語を話すからです。しかし、彼女は人々に福音を紹介して、毎年少なくとも二人を教会に導いています。

世界のほかの地域と比べ、長い間ブリティッシュコロンビア州は改宗者の多い地域ではなかったことをミドルトン会長は認めています。しかし状況は変わってきています。ミドルトン会長の話によれば、マ姉妹や彼女のような会員の働きによって、伝道部内でバプテスマと確認を希望する求道者の数が急激に増えているからです。神権指導者が伝道活動を重要視するようになったブリティッシュコロンビア州の末日聖徒は、真の意味での会員伝道を実施しています。彼らが学ん

でいる教訓は、伝道をしたいと願う世界中の会員にも応用できるものです。

## 変化

バンクーバー伝道部は長年、教会に加わる人の数が増えないという悩みを抱えていました。ブリティッシュコロンビア州ナナイモステークのコーリン・バン・ホーン会長はこう説明しています。「ブリティッシュコロンビア州では宗教の話題はタブーという暗黙の了解が長年にわたって定着しています。カナダでは宗教に話題を向けると『けっこうです』という決まり文句が返ってきます。」このような文化のため、伝道活動はずっと専任宣教師に任せっきりでした。そして、

彼らはほとんどの時間を街頭伝道や戸別訪問に費やしていました。残念ながら、福音に関心のある人々を見つけるうえでこれは効率の良い方法とは言えません。

数年前、中央幹部からの勧めを受け、ブリティッシュコロンビア州の伝道部会長とステーク会長は幾つかの変更を実施しました。会員が人々を上手に教会へ誘えるようにすることがそのおもな目的でした。

## 教会堂の見学ツアー

ステーク会長たちが実施した変更の一つは、地理的に近いアメリカ合衆国ワシントン州タコマで成功している伝道方法をそれぞれの状況に合わせて取り入れることでした。タコマの宣教師たちは教会に興味を示す人々がいるとすぐに最寄りの教会堂の見学に招待するのです。そして教会の施設やプログラムについて説明するとともに、回復についても教







**バプテスマに臨むジーン・ツアオ(左)と友人のレナ・マ姉妹。  
ツアオ姉妹はマ姉妹の助けによって教会に加入した大勢のうちの一人。**

え、礼拝堂の中か最初の示現の絵画の近くで見学を終えます。宣教師はそこで、預言者ジョセフ・スミスについて証を述べ、彼らと一緒に祈るよう見学者に勧めます。

ブリティッシュコロンビア州では、教会堂の見学ツアーが伝道活動の一部として広く行われており、専任宣教師だけでなく会員も、友人を見学ツアーに招待するよう勧められています。バンクーバー伝道部の数字を見ると、7人が教会堂の見学ツアーに参加すれば、そのうちの一人はバプテスマと確認を受けています。見学ツアーに教会員が付き添ってればより理想的だそうです。

ミドルトン会長はこう話しています。「わたしたちが見学ツアーで目指しているのは、教会員でない人に『この教会なら会員になっても居心地がいいだろう。ここには自分に必要な何かがある』と思ってもらえるようにすることです。」

ブリティッシュコロンビア州の多くの新会員は、末日聖徒の教会堂を初めて訪れたときに、そこで御霊を感じたと言います。ブリティッシュコロンビア州ナナイモステーク、ポートアルバーニワードのマルコム・コフィルは、近くに住む教会員トム・ハウスホルダーとマーラ・ハウスホルダーから福音を紹介され、2005年8月に教会に加入しました。教会に入る決心をした理由についてコフィル兄弟はこう語ります。「初めてその美しい建物に足を踏み入れたときに感じたすばらしい気持ちと、温かい歓迎のおかげです。」

バンクーバー伝道部の専任宣教師ジル・ベレット姉妹は、18歳になる友人に誘われて教会堂を見学した一人の求道者について話しています。「見学している間に何かを強く感じた彼女はすぐに宣教師と福音を学ぶことを希望しました。友達にモルモン書をプレゼントされ、別の友達からは若い女性のキャンプに誘われました。皆から愛され、すっかり溶け込んだ彼女は、バプテスマを受ける前からすでに、集っているワードを『わたしのワード』と呼ぶようになっていました。」

もちろん、末日聖徒イエス・キリスト教会の教会堂を訪れる人が皆、すぐに御霊を感じるわけではありません。しかし、教会についてもっと知りたいと考えながら家路に就く人は大勢います。

### 会員伝道の成功から学ぶ

マ姉妹が主の家に人々を招待し始めてから10年になります。招きに応じ、福音を受け入れた人は20人を超えています。「教会の行事に参加するとき、マ姉妹は必ずだれかを連れて来ます」とミドルトン会長は言います。初めて教会に招



先日、ある男性を見かけたとき、同じ支部に以前集っていた会員に似ているので声をかけてみて、とソニーから言われました。そこで近づいてみると、ソニーにからかわれたことに気づきました。全然知らない人だったのです。気まずい沈黙を破り、わたしはこう言いました。『あなたはわたしの旧友にそっくりです。その人はわたしの教会の会員でしたが、あなたはモルモン教会について聞いたことがありますか。』すると、以前

その人がわたしたちの教会の会員だったことが分かり、信仰について話し合いました。そして教会に誘うと、彼は言いました。『実は退院したばかりなのです。そこへあなたが現れて、教会に戻るよう勧めてくれました。まるで天使に出会ったようです。』もし声をかけなかったら、彼が入院していたことも、教会とのつながりを取り戻したいと思っていることも分かりませんでした。』

ソニーはこう言います。「主に心を向けていれば、主はわたしたちの前に人々を備えてくださいます。」ある日ソニーがキャンピングカーをバックさせていたとき、車輪が溝にはまってしまいました。レッカー車を呼びましたが、そのとき、福音についてレッカー車の運転手に話すようにという御霊の促しを受けました。「わたしは運転手に言いました。『あなたとお話してできるように、主がわたしの車を溝に落としてくださったのです。』彼は笑ってしまい、それから話が始まりました。すると、その運転手のおばあさんがかつてモルモンだったことが分かり、彼はモルモン書が欲しいと言いました。わたしたちはモルモン書を余分に持つようしていたので、喜んで彼に渡しました。』



待するとき、マ姉妹は必ず見学ツアーについて説明してから連れて来るようにしています。

ルビーの場合——レナ・マは図書館でルビーに出会い、会話を始めました。「日曜日はいつも何をしているのか尋ねました」とマ姉妹は語ります。「それから息子さんについて、彼女が集っている教会では子供向けにどんな活動があるのかを尋ねました。そして、初等協会について説明し、どんなところか来てみてほしいと伝えました。ルビーはやって来て、さらに何度か出席しました。昨日からは宣教師と福音を学び始めています。」

ブリティッシュコロンビア州のソルトスプリングアイランド支部から、アルバータ州のカードストーン第8ワードに最近移ったソニー・サラとシャイナ・サラは、マ姉妹と同じような方法で伝道をしています。ソニーとシャイナはこれまで何百人、何千人の知人や、初めて出会った人に福音について話してきました。シャイナは次のように語っています。「人に会うとすぐ、『この辺りの教会に行っているのですか。わたしたちは末日聖徒イエス・キリスト教会へ通っています。この教会のことを御存じですか』と尋ねるようにしています。」

「楽しみながら伝道するというのが目標です。」

**オ** レゴ家の人々  
(上)のように、  
自分にとって  
最善の伝道方法を見つ  
け、  
日常生活で  
実行することが  
会員伝道の成功に  
つながっている。  
彼らは、  
福音に耳を傾けるよう  
人々に勧めることを  
中心とした  
家族の伝道計画を  
実行している。

## ワードと家族の伝道計画を立てる

マ姉妹やサラ夫妻は毎日会う人々に伝道活動を行うことに何の抵抗もありません。しかし、中には福音についてはかの人に話すことを怖いと感じる人もいます。一歩踏み出すには少しの助けが必要です。そのようなときにワードや支部の伝道計画が役に立ちます。

ミドルトン会長が伝道部会長になって間もなく、ステーキ会長調整評議会が開かれました。そこでブリティッシュコロ



**マーラ・ハウスホルダーとトム・ハウスホルダー(上)のペンションでは御<sup>みたま</sup>霊を感じることができる。その影響を受けた一人マルコム・コフィル(右)は教会に加入した。**



ビア州のステーキ会長たちは各ステーキの伝道計画について話し合った後、『わたしの福音を<sup>の</sup>宣べ伝えなさい』にある勧めに従って、ワードと支部が独自の計画を立てるための指針を設けました。自らが計画を立てた方が、達成への意欲が強くなるからです。そしてステーキ内の各ワードと支部が計画を立てる際に取り入れるべき4つの原則を決めました。

1. 計画にはワードや支部の伝道主任だけでなく、全会員を参加させる。
2. 数字などで結果を測ることのできる目標を立てる。
3. 各家族もそれぞれの伝道計画を立てられるような内容とする。
4. 分かりやすいものとする。

ブリティッシュコロニア州ではほとんどのワードと支部がそれぞれの伝道計画を立てています。小さなカードに書き込んで、冷蔵庫にはりつけておけるほど簡単な計画です。しかしビクトリア第2ワードなど幾つかのワードは次の段階に進んでいます。フランク・ヒッチモービショップとワード伝道主任のマイケル・マルホランドはワードの家族と話し合い、それぞれの家族が伝道計画を立てられるよう助けています。各家族は、自分たちにとって最適と判断した目標と方法を伝道計画に盛り込みます。

## 責任を持つ

伝道活動を成功させる<sup>かぎ</sup>鍵は実行可能な計画を立てるだけではないことをマルホランド兄弟は強調しています。「計画自体よりも、むしろだれが責任を持って実行するかということが大切です。計画を進めるうえで大切なのは、キーズ会長や彼の顧問のように、ステーキ会長会が伝道活動に対して情熱を持っているということです。ステーキ会長会はビショップに指示を与え、そしてビショップが伝道活動を優先事項とするならば、成功します。」

ブリティッシュコロニア州ビクトリアステーキのランディー・キーズ会長は、同じ州の神権指導者たちが地域七十人から伝道活動を優先事項とするよう求められたことについて話しています。多くのワードと支部で伝道活動は高い優先順位にありませんでした。しかし今、ブリティッシュコロニア州の神権指導者は

青少年の指導に次ぐ位置に伝道活動を置いています。

ビショップが神権役員会、ワード評議会、神権会、扶助協会で伝道活動を強調しているワードでは会員伝道が成功しています。ビショップが割り当てを与えて、求道者と、あまり熱心に集っていない会員の進歩状況をワードの指導者とともに確認します。

多くのワードで伝道計画を成功させている要素の一つとして、会員伝道クラスを挙げることができます。開講する度にビショップから召された6人から8人の会員が出席します。教師はワード宣教師または専任宣教師が務めます。テキストは『わたしの福音を<sup>の</sup>宣べ伝えなさい』を使用し、伝道活動に関連する教義、自発的に取り組む姿勢、実戦的なアプローチの方法をテーマとして採り上げます。生徒はそれぞれの伝



道経験を分かち合い、ロールプレーによって学習します。

伝道活動は最終的に、個々の会員の責任です。すべての会員は福音を紹介する最善の方法を決めて、それを実行する必要があります。

ベンジャミン・オレゴとロビン・オレゴは、自分の家族にとって有効な伝道方法を見つけました。そして計画を立てるように言われる以前から家族の伝道活動で実行していました。オレゴ夫妻は人々を自分の家に招いて「家庭集会」を開き、必ずしも末日聖徒のテーマに絞ることなく良い話を紹介し合っていました。ゲームや食事もします。また、教会の映画や書籍を渡したりもしました。

しかしオレゴ家は、体系化され、一貫性のある伝道活動の方が個人的な努力だけに頼るよりも効果があることを理解しています。そこで、家族の計画の一つとして毎年3人を教会堂の見学ツアーに招待することにしました。ブリティッシュコロンビア州の各ワードと家族は、これに似た目標をそれぞれの伝道計画に盛り込んでいます。ブリティッシュコロンビア州アボッツフォードステーキのポール・クリステンセン会長が発案したこの方法は急速に広まりました。

### 独自の伝道計画を無理なく行う

クリステンセン会長はステーキの会員たちにほかの方法も考えてみるよう勧めています。ステーキ会長会は毎月、取引先の人、職場の同僚、隣人といった様々な人々を挙げ、福音を紹介するよう会員に勧めています。また専任宣教師には、神権役員会とワード評議会だけでなく、補助組織の集会にも出席してほしいと伝えています。また、クリステンセン会長は宣教師の伝道地区の集会と宣教師大会に出席し、宣教師の役割は教えることであり、会員の役割は招待することであると強調しています。会員たちは宣教師を支援するとともに、機会があれば証を述べます。また、時として福音の原則を紹介することもあります。[きてごらん

なさい]と人々に勧めることが会員たちのおもな務めです(ヨハネ1:39, 46)。

クリステンセン会長が考え出した最も創造性に富む伝道方法の一つは、ほかの宗派の人々の協力の下に教会員が新しい技術を学べるようにするというものです。「わたしたちは最近シングルアダルトの大会を開きました。この大会では多くのセミナーを計画していました。しかし、セミナーの講師を頼むに当たり、企画をしていた会員たちは皆次のように言っていました。『この辺りの会員で配管工をしている人はいるだろうか。技術者はどうだろうか。』わたしは言いました。『セミナーの講師を教会員の中から探すのをやめましょう。近くで配管工をしている人を探してきましょう。便利屋さんを探しましょう。彼らを招待し、教会堂のツアーをして、わたしたちのことを知ってもらうのです。』わたしたちは外に目を転じる必要があります。』

ビクトリアステーキは長年にわたって教会外の人々との交わりの大切さを強調してきました。サンドラ・ギルが地元で系図協会を発足させたのは1978年のことです。最初の集会は彼女の家の地下室で開かれました。彼女は今なお系図協会の集会に出席し、クラスで教えていますが、現在ではほとんどの時間をステーキの家族歴史センターで過ごしています。スタッフは約60人で、ほとんどが教会員ではありません。センターは週に45時間開いていて利用者の約70パーセントは教会員ではない人々です。

ギル姉妹と同様、トム・ハウスホルダーとマーラ・ハウスホルダーは福音を紹介するために自分たちの仕事とその環境を独自の方法で活用しています。ハウスホルダー兄弟姉妹はポータルバーニで小さなペンションを営んでいます。ロビーには教会の機関誌が置かれており、だれでも手に取ることができます。また、客室には聖書とモルモン書が置かれています。ペンションを経営してきた3年間に、30冊のモルモン書が「消え」ましたが、二人はもっと消えることを願っています。クリスマスの時期には音楽祭を主催し、イエス

### 良い伝道経験、効果的な伝道方法を紹介してください

カナダのブリティッシュコロンビア州の会員たちは、福音に耳を傾けるよう人々に勧めるための様々な方法を考え出してきました。あなたも「リアホナ」に成功例を紹介してみませんか。電子メールで [liahona@ldschurch.org](mailto:liahona@ldschurch.org) へ送信するか、以下のあて先にお送りください。

Missionary Ideas, *Liahona*  
50 E. North Temple St., Rm. 2420  
Salt Lake City, UT 84150-3220,  
USA

の降誕の情景を装飾で再現します。トム・ハウスホルダーがビショップを務めるポータルバーニワードの聖歌隊もここで発表しています。

### 御霊の宿る場所とする

アボッツフォードステークのクリステンセン会長は、末日聖徒の神殿には神聖な力が宿ることを固く信じています。このため、バンクーバーに神殿が建設されることが2006年6月に発表されたとき、クリステンセン会長は大きな感動を覚えました。「わたしたちが特別に義に秀でていたためではなく、福音を分かち合うために必要なので神殿が与えられるのだと思います。わたしたちは神殿からもたらされる光を必要としています」と彼は語っています。

神殿に寄せる彼らの強い思いによって、ブリティッシュコロンビア州では驚くほど大勢の人々が教会に加わっています。「わたしはソルトレーク・シティーでテンプルスウェアの門をくぐったときの感動が忘れられません。それは暗黒から光に抜け出たような気持ちでした」とビクトリアステークのジュリー・キーズは言います。出会った人々、ジョセフ・スミスの証、イエス・キリストを中心とした生活など、彼女はそこで味わったすべての経験に感動しました。「わたしは『このことについてもっと知らなければならぬ』と思いました。」自宅に戻ると、彼女は地元の末日聖徒の教会に電話し、宣教師と話したいと伝えました。

現在はビクトリアステークの会長夫人であるキーズ姉妹が神殿を訪れたのは、一人の教会員の招きを受けたからです。そこで彼女は会員たちから感じた心の温かさに驚きました。実際、ブリティッシュコロンビア州におけるほとんどすべての改宗の物語に共通する一つのテーマがあるとすれば、それは教会員からあふれ出ている光、喜び、そして真の友情です。会員たちと接し、御霊を感じることによって、人々ももっと知りたいという気持ちになるのです。

ブリティッシュコロンビア州の教会員にとっては、これらの方法が伝道に最も大きな成功



をもたらししているようです。彼らは、人を改宗に導くのが自分ではなく、主であられることを学んでいます。求められているのは、福音に生き、人々を愛し、人々を御霊のある場所、つまり教会堂、教会の活動、会員の家、神殿へ連れて行くことだけなのです。会員伝道の経験を豊かに持つ会員たちは、誘いを断られても気に留めません。ただ誘い続けるのです。宣教師も教え続けます。そして主は引き続き、祝福として御自身の子供たちに御霊による証を与えてくださいます。■

「ビショップが伝道活動を優先事項とするならば、成功します」と語るビクトリア第2ワードの伝道主任マイケル・マルホランド(上)。最近改宗したアーマ・マッカーサー(左)、バス・ランドリーとともに。

## どのような犠牲にも勝る神殿結婚

ジョバニー・メディナ

**最**初の事業が倒産し、火事のために二つ目の事業も失敗したときに初めて、婚約者のベニーを神殿に連れて行けるか心配になりました。神殿へ行くまでには信仰の試しがあると聞いていましたが、神殿結婚の目標を立てたとき、どれだけ大きな試しがあるか、わたしたちは知る由もありませんでした。

ベニーとわたしは、それぞれが伝道を終えた後、母国パナマで出会いました。当時、神殿で結婚生活を始めたいと思うパナマの男女は、直前に市民結婚をしてからパナマに最も近いグアテマラのグアテマラシティー神殿に行きました。費用のかさむ、大変な旅でしたが、結び固めの祝福なしに人生を歩むことはわたしたちには考えられませんでした。

プロポーズをした翌日、仕事を失いました。わたしはくじけずに、バスツアーの仕事をしてお金を稼ぐことにしました。しかし、初日の夜にバス

が故障してしまいました。多少の不安を感じつつも決意を新たに、次はTシャツを売ることにしました。ところが朝、製造会社にTシャツを取りに行くとき、前夜に建物が全焼したことを知りました。わたしの希望も一緒に灰と化してしまったような気分でした。

次の神殿訪問ツアーまでほんの2、3か月しかありません。お金を稼ぐために払ってきたこれまでの努力はすべて水の泡でした。わたしは煙が立ち込めているがれきを離れ、ベニーを探しに行きました。

わたしは彼女に言いました。

「ぼくは一文なした。結婚しない方がいいかもしれない。」

ベニーはこう答えました。「もしお金のために結婚するのなら、とっくに結婚しているわ。でも、お金のために結婚するわけじゃない。わたしがあなたと結婚するのは、あなたを愛しているからよ。」

これが転機となりました。わたしたちは大きな試験に受かった気がしました。信仰をもって前進しているうちに、扉が次々と開き始めました。必要を十分満たす収入にはなりませんでした。わたしは家具作りの仕事を見つけました。すると、ビショップが親切にも

**わ**たしたちは  
道路沿いの  
シェルターで  
寝泊まりをしながら、  
ニカラグアの国境まで  
歩き続けました。  
そこで何とか  
タクシーを見つけ、  
ニカラグアの首都まで  
行きました。



わたしたちのバスの費用を負担しようと言ってくれました。とてもうれしい申し出でしたが、お金を払ってもらうことに気が進みませんでした。わたしたちは自分の力で何とかしようと思っていたのです。しかし、心からわたしたちを助けたいと願うビショップの姿を見て、代わりにベニーに仕事をさせてもらえないかと頼みました。ビショップはそうしてくれました。

神殿に行くために必要な資金を稼いだ後、わたしたちは市民結婚をして、10人の教会員と一緒に、ついにグアテマラへの旅路に就きました。ところが、試しはまだ終わったわけではありませんでした。

広範囲に及ぶ輸送ストライキがあり、コスタリカとの国境で足止めされてしまいました。2日間国境で待ち続けた末、バスの運転手は引き返すことにしました。しかし、ベニーとわたしは、二人の兄弟と一組の夫婦とともに、あきらめずに神殿を目指すことにしました。元来た方に走り去って行くバスを見届けてから、徒歩でコスタリカに入りました。わたしたちは道路沿いのシェルターで寝泊まりをしながら、ニカラグアの国境まで歩き続けました。そこで何とかタクシーを見つけ、ニカラグアの首都まで行き、さらにホンジュラスの国境までバスの切符を購入しました。さらに2日間、バスを2回乗り継いだ末、やっと神殿にたどり着きました。喜びでいっぱいでしたが、汚れて疲れ果てていたうえ、当初の計画をはるかに上回るお金を使ってしまいました。

身だしなみを整えたベニーとわたしは、生者のための儀式推薦状を紛失していることに気づきました。おまけに、パナマにいるビショップはその日出張に出かけることになっていました。わたしたちは悲嘆に暮れました。

すべての試練を乗り越えてきたこれまでの努力は無駄だったのでしょか。わたしたちはベニーのウェディングドレスにアイロンをかけながら、主がここまで来るのを助けてくださったのなら、最後まで助けてくださるに違いはない、そう確信しました。

ビショップはすでに出かけていると思いましたが、とにかく電話をすることにしました。すると驚いたことに、ビショップは出張に行っていない

と感じたとビショップは言いました。わたしたちは大喜びしました。ビショップはファックス機が見つかり次第、必要な書類を送ると約束してくれました。

わたしたちは、神殿の結婚控室で祈りながらひたすら待ち続けました。その日は土曜日で、2時間後には神殿が月曜日まで閉館することになっていました。何でこんなに時間がかかっているのでしょうか。ようやくビショップのおわびとともにファックスが届きました。送信しようとしていたときに停電になったとのことでした。

多くの試練や回り道の末、わたしたちはついに夫婦として永遠に結び固められました。わたしたちの心は喜びに満ちあふれました。努力を重ね、心配をし、長く待たされましたが、それまでの苦勞が報われたのです。

神殿で結婚するすべての人がこのようなチャレンジに直面するわけではありませんが、ベニーとわたしにとって(そして、神殿までともに旅をした

人々にとって)これらの経験は精練の過程でした。その旅で神殿にたどり着いた4人の兄弟のうち3人は後にビショップに召されました。2人は現在ステーク会長会の顧問として奉仕しています。わたしたちは皆、とても祝福されてきました。これはわたしの生涯の中で最も大いなる経験の一つです。

もし神殿で結婚するというわたしたちの目標がこの世的な愛のためだったら、決してその目標は達成できなかったでしょう。しかし、わたし

たちは現代に回復された神権の結び固めの力を信じていたので、あきらめませんでした。わたしたちは、この世と永遠にわたる二人の神殿結婚が、どのような犠牲にも勝る価値があることを知っていたのです。■

## 最後のチャンス

ルイス・メラ

**18**歳のとき、わたしは教会を離れることにしました。一

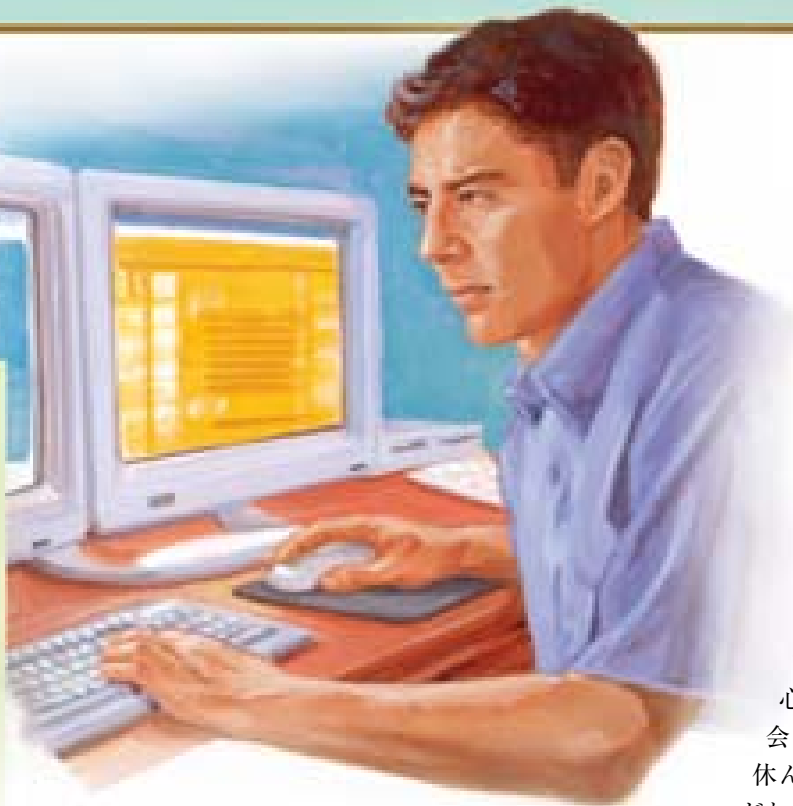
時的に救い主のそばを離れても、わたしの生活に大した影響はないように思えました。母国のチリでは、そのときの収入で快適に暮らすことができました。世俗的な生活をいつまでも送れるだけのお金が続き、14歳でバプテスマを受けたときに交わした約束を無視し続けられると思っていました。

数年間このような生き方を続けていましたが、突然歯車が狂い始めました。周りのすべてのものが闇に覆われていくかのような感じでした。職を失い、次の仕事はなかなか見つかりませんでした。生きていくために、どんな仕事でもせ



## 失 敗してまた 天の御父の 期待に

こたえられないのでは  
ないかと恐れました。  
しかしその考えを  
振り払い、  
コンピューター  
プログラミングの  
専攻で学校に  
入りました。



ざるを得ませんでした。これで目が覚め、再び教会に戻る道を見いだすべきでしたが、目は覚めませんでした。

それから間もなくして1998年に父親が亡くなりました。わたしは長男だったため、母親や弟の面倒を見る責任の大部分が降りかかってきました。自由気ままな生き方に別れを告げたわたしは、人間には理解できないことが起こるのを主は時としてお許しになること、そしてその理由は結果を見るまでは分からないということを悟りました。

恐らく、わたしが経済的にどん底を経験することを主がお許しになった理由は、そこから逃れる唯一の方法が什分の一じゅうぶんを納めることであるとわたしに示されるためだったのだと思います。教会に戻り、聖約を新たにした後、わたしは什分の一を納めました。主はこのように辛抱強く、愛をもってわたしを再び羊の群れに連れ戻してくださったのです。

2001年の総大会で、ゴードン・B・ヒンクレイ大管長が永代教育基金を発表しました。経済力をつけるため、わ

たしにはそのような機会が必要でしたが、応募するための条件を自分が満たしているか不安に思いました。

数か月後の聖餐会せいさんでステーク会長が永代教育基金について話しました。非常に驚いたことに、わたしでも応募できるかもしれないことを知りました。そして心の中でこう思いました。「これは最後のチャンスだ。絶対に逃さないぞ。」

そして、このプログラムで求められる責任について考え始めましたが、また失敗して天の御父の期待にこたえられないのではないかと恐れました。しかしその考えを振り払ったわたしは、地元のインスティテュートディレクターから情報を収集し、申請書を提出しました。自分の過去を考えると、願いがかなう可能性はほとんどないと思っていました。悔い改めて教会に戻っていましたが、そのような祝福を受けるにはふさわしくないと感じていたのです。

貸し付けを受けられるという返事を教会本部からもらったとき、家族とわたしは大いに喜びました。金額は1年

分の学費に及びませんでしたが、わたしはコンピュータープログラミングの専攻で学校に入りました。そして良い成績を修めて奨学金をもらい、残りの学費を払うことができました。

以来、わたしは感謝を表すためにできることをすべて行ってきました。熱心に働き、学問に励み、教会の責任を果たしています。休んでいた分を取り戻し、主がわたしに期待しておられることを知るために、インスティテュートのクラスに出席しています。

わたしの持つ最も大切な知識は、自分が犯した過去の悪い行いがすべて赦ゆるされているということです。わたしの将来の計画は皆、この知識に基づいています。わたしはこれからも家族を助けていきますが、今後はより正しい方法でその責任を果たしていきたいと思っています。■

## 祈りが生んだ一致

ダニエル・オープンショー

**軍**隊の基礎訓練は過酷でした。特に霊的な面で過酷でした。粗悪な言葉や悪い影響に囲まれていました。祈りと神権の祝福は堪え忍ぶ力を与えてくれましたが、個人の祈り以外にも何かをしたいと切望していました。伝道に出たことにより、わたしは同僚との祈りで得られる強さと一致を知っていました。一致は、56人の空軍兵から成るわが部隊にぜひ必要なものの一つでした。

基礎訓練が始まって3週間が過ぎて



も、わたしたちは人間関係とチームワークに苦戦していました。わたしは下級士官のところへ行き、有志で毎晩祈り会を開くための許可を仰ぎました。驚いたことに、士官たちは同意してくれただけでなく、共感もしてくれました。

最初の集会には6人が来ました。ラッパの合図で灯が消えた後、わたしたちは懐中電灯の下で、そのとき直面していた困難に関連する、幾つかの聖句を新約聖書から読みました。それから祈りをささげ、神の御霊がともにあるよう、そして今の環境に感謝できるように願い求めました。

参加する兵士は回を重ねるごとに増え、すぐ15人になりました。聖書の聖句を読むこともあれば、モルモン書を読むこともありました。毎晩、希望者は祈ることができました。

勇気を振り絞って祈り会に参加した一人の空軍兵がいました。初めはみんなの話の聞いているだけで、彼が祈る番になると、自分はいいいので次の人に祈ってほしいと言いました。しかし数週間後のある晩、彼はやって来て祈りをささげました。家族が家での問題を解決する助けを得られるように、そして訓練の最後の数週間、自分が強められるように祈りました。彼は訓練終了とともに祈り会が終わるのを残念に思っており、これからは毎晩寝る前に一人で祈るつもりだと言いました。

**ラ**ッパの合図で  
灯が消えた後、  
わたしたちは  
懐中電灯の下で、  
そのとき直面していた  
困難に関連する、  
幾つかの聖句を  
新約聖書から  
読みました。

その後すぐの祈り会でも彼は祈り、家族についての祈りがこたえられたことに感謝を述べました。さらに、自分が強められ、基礎訓練を続ける自信につながったことも感謝しました。

指定された技術学校にそれぞれが出発する前夜、この同じ空軍兵がわたしたちに次のようなことを話してくれ

ました。基礎訓練に来る以前、彼は神についてほとんど教えられたことがなく、神を信じていませんでした。しかし、わたしたちと聖文を読み、祈っているほかの兵士たちの模範を見たとき、彼の中に信仰が芽生え始めました。そして彼は、祈り会で皆とささげた最初の祈りが生まれて初めての祈りだったと打ち明けてくれました。

わたしが願ったとおり、祈り会はわたしたちの部隊に一致をもたらしてくれました。しかし、それ以上の成果がありました。祈り会はわたしたち一人一人を強め、天の御父に心に向ける助けになったのです。■



### 主の靈感を受けて

『リアホナ』の記事は主から靈感を受けて書かれていますと証したいと思っています。靈感されているからこそ『リアホナ』は証を伝え、人々の考え方を換え、彼らを改宗に導くのです。その力は教会員に

長老の記事(2006年7月号参照)は、自分の決断を吟味するための力を新たに与えてくれました。

ドイツ、インゲロール・ベンショルン

### 驚くべきたとえ

ポルトガル語の『リアホナ』にとっても感謝しています。特別にわたしのために書かれたと思えるようなメッセージがいつも載っています。中でも、2006年7月号で読んだディーター・F・ワーク

トドルフ長老の「わしの翼に乗って」

と題した話が好きです。現在

物理学を学んでいるわたし

にとって、福音

の原則を空

気力学に

たとえた

メッセージ

は驚くべきもの

でした。特に聖霊を

も及び

ます。わたしは

毎日、起きるとすぐに『リ

アホナ』を読むことにしています。

座って読んでいます、いつしか涙

が頬を伝っています。読んでい

ると非常に強い御霊を感じます。そ

の記事に書いてあることが真実で

あると御霊が証してくれます。

ブラジル、エバウド・ゴメス・デ・アルメイダ

### 『リアホナ』の記事に強められて

あるとき、わたしはとても難しい決断に迫られていました。心も頭もとても混乱していました。ひざまずき、必死になって天の御父に祈っていると、『リアホナ』を読むべきだという思いが浮かんできました。最初ははかどりませんでしたでしたが、読んでいるうちに、御霊を感じていることに気づいたので、その記事のおかげで信仰が強められました。特にH・ロス・ワークマン



「翼に吹く風」にたとえた部分にとっても感動しました。

ブラジル、ルシマラー・モラエス

### 小さな行いが改宗へと導く

2002年12月1日、わたしは書店に入ってモルモン書を買いました。救いの計画についてのパンフレットが中に挟んでありました。パンフレットには「バージェイ姉妹、ソレンセン姉妹」と書かれてあり、電話番号が添えられていました。2003年7月、わたしはその番号に電話をかけました。

2004年の夏までに、スウェンセン長老、バーノン長老、グレゴリー長老から福音を学びました。そして2006年8月28日、ついにわたしはバプテスマを受けました。2006年9月号の『リアホナ』に掲載されていたライアン・W・ジョーンズ兄弟の「刈り入れは遅くとも」という記事を読んだとき、自分をバプテスマと確認へ導いてくれた小さな行いを思い出しました。

ロシア、ニコライ・ベンチコフ

### 慎み深さを守る

わたしは2006年6月号に掲載された「慎み深い服装の大切さ」という記事への感謝を記します。すばらしい内容で、大きな助けになりました。卒業を間近に控えたわたしは、ダンスパーティーに何を着て行くべきか分からずに迷っていました。買い物に行っても、パーティーの場にふさわしく、なおかつ慎み深いドレスは一つもありませんでした。何を着て行ったらよいか一日中考えていました。思い切って行くのをやめようかとも思ったり、また標準のことは忘れて、買い物のときに目に留まったドレスを着て行こうかと思ったりしました。しかしあの記事を読んだとき、標準を下げるべきではないことや、自分の身体を神殿のように大切にしなければならないことを知りました。

最終的には、標準に添った、天の御父や救い主の前で着ても恥ずかしくないかわいい服を着ていこうと決めました。しかもすばらしいことに、母が最高の愛を込めて、美しいお手製のドレスを作ってくれることになったのです。天の御父とイエス・キリストを愛しています。周りの人に合わせて自分の標準を下げることは決してしません。

メキシコ、ステファニー・マガーニャ・タラベラ



**「タビタよ、起きなさい」 サンディー・フレックルトン・ゲーゴン画**

「タビタ……という女弟子〔は〕……数々のよい働きや施しをしていた婦人であった。ところが、そのころ病気になるって死んだ……。

ペテロは……ひざまずいて祈った。それから……「タビタよ、起きなさい」と言った。

すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起きなおった。ペテロは彼女に手をかして立たせた。」(使徒9：36 - 37, 40 - 41)



「わたしたちは皆、かつては独身でした。  
現在独身の人もいますし、いつか再び独身になる人もいるでしょう。  
ですから教会では独身でいるのは決して珍しいことではないのです。  
……パウロがエペソの人たちにあてたメッセージにあるように、  
わたしたちはすべての人に教会の大切な一員であると感じてもらいたいです。  
『そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、  
聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。』(エペソ2:19)  
わたしたちは主の教会に属するだけでなく、  
互いにも属し、依存し合っているのです。」  
ジェームズ・E・ファウスト管長「一人残らず歓迎しましょう」2ページ参照